

(様式第10)

信大病総0404号

令和6年10月4日

厚生労働大臣 殿

国立大学法人信州大学長 中村 宗一郎

信州大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒390-8621 長野県松本市旭3丁目1番1号
氏名	国立大学法人 信州大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

信州大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒390-8621 長野県松本市旭3丁目1番1号
電話 (0263) 35-4600

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科				有			
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1呼吸器内科	<input type="radio"/>	2消化器内科	<input type="radio"/>	3循環器内科	<input type="radio"/>	4腎臓内科
	5神経内科	<input type="radio"/>	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
<input type="radio"/>	9感染症内科	<input type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科		<input type="radio"/>		11リウマチ科
診療実績							
脳神経内科、糖尿病・内分泌内科、腫瘍内科、緩和ケア内科							

- (注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科	○	7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	移植外科	2	形成外科	3	リハビリテーション科	4	病理診断科	5	児童精神科
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40				677	717

(単位:床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	244	223.83	467.83
歯科医師	5	18.39	23.39
薬剤師	38	10	48
保健師	0	0	0
助産師	72	1.86	73.86
看護師	716	5.57	721.57
准看護師	1	0	1
歯科衛生士	4	1	5
管理栄養士	6	7.65	13.65

職種	員数
看護補助者	38
理学療法士	18
作業療法士	12
視能訓練士	7
義肢装具士	0
臨床工学士	23
栄養士	0
歯科技工士	2
診療放射線技師	45

職種	員数
診療エックス線技師	0
臨床検査技師	69
衛生検査技師	0
その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0
医療社会事業従事者	6
その他の技術員	34
事務職員	179
その他の職員	35

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	82	眼科専門医	14
外科専門医	45	耳鼻咽喉科専門医	12
精神科専門医	11	放射線科専門医	20
小児科専門医	34	脳神経外科専門医	10
皮膚科専門医	11	整形外科専門医	35
泌尿器科専門医	7	麻酔科専門医	22
産婦人科専門医	18	救急科専門医	8
		合計	329

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (花岡 正幸) 任年月日 令和 29 年 4 月 1 日

平成29年4月1日～令和2年3月31日:医療安全管理室長

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	445.1 人	13.3 人	468.4 人
1日当たり平均外来患者数	1,350 人	83.1 人	1,433 人
1日当たり平均調剤数	876.3		剤
必要医師数	125		人
必要歯科医師数	2		人
必要薬剤師数	16		人
必要(准)看護師数	282		人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要		
集中治療室	645 m ²	鉄筋コンクリート	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	14 床 有 有	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー 有 有 有
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 台数	216 m ² 0 台	病床数	21 床
医薬品情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床面積 共用する室名	50 m ²		
化学検査室	508 m ²		(主な設備)	全自動マイクロプレートEIA分析装置	
細菌検査室	128 m ²		(主な設備)	Anoxomat Mark II (細菌診断装置)	
病理検査室	232 m ²		(主な設備)	凍結組織切片作製装置	
病理解剖室	201 m ²		(主な設備)	写真撮影器具	
研究室	241 m ²		(主な設備)		
講義室	949 m ²		室数	10 室	収容定員 404 人
図書室	88 m ²		室数	1 室	蔵書数 9,500 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	91.7	%	逆紹介率	71.5	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		13,748		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		11,834		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,431		人
	D: 初診の患者の数		16,560		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
田内 克典	社会医療法人財団慈泉 会相澤病院 病院長	○	医療に係る安全管理に 関する識見を有する者	無	1
宗村 和広	信州大学経法学部教授		法律に関する 識見を有する者	無	1
土屋 恭子			医療を受ける者	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
タイムラプス撮像法による受精卵・胚培養	122人
子宮内細菌叢検査1(EMMA/ALICE)	34人
子宮内膜受容能検査1(ERA)	19人
子宮内細菌叢検査2(子宮内フローラ検査)	10人
子宮内膜受容能検査2(ERPeak)	1人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類合計数	5
取扱い患者数の合計(人)	186人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	ハイブリッド手術室での脊柱側弯症手術	取扱患者数	38
当該医療技術の概要 ハイブリッド手術室でロボテックC-armにより撮影されたCone beam CT画像で仮想現実を作り出し、術中CTナビゲーションによる側弯症手術を行う。コンピュータナビゲーションシステムを利用して椎弓根スクリューを挿入し安全に側弯症手術を行う。			
医療技術名	血管奇形に対する硬化療法	取扱患者数	17
当該医療技術の概要 リンパ管奇形のみならず、動静脈奇形、静脈奇形にも放射線科と連携して硬化療法を施行している。			
医療技術名	顔面骨骨切り術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 複雑な先天異常の顔面骨異常に対し、術前3D骨模型を用いた計画のもと、骨切り術を施行している。			
医療技術名	リンパ管静脈吻合術	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 リンパ浮腫に対するリンパ管静脈吻合術を保存的療法に加えて施行している。			
医療技術名	マイクロサージャリーによるがん切除後の再建手術	取扱患者数	48
当該医療技術の概要 悪性腫瘍手術により広範に切除された組織を再建するためにマイクロサージャリーを行う。			
医療技術名	キムリア療法	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 難治性白血病に対するCAR-T細胞製剤による治療。20程度の認定施設でしか実施できない。			
医療技術名	遺伝子改変T細胞療法	取扱患者数	13
当該医療技術の概要 難治性血液腫瘍に対する免疫細胞治療。			
医療技術名	肺癌におけるサルベージ手術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 進行肺癌に対する初回治療で、手術適応無しと判断され薬物療法や放射線化学療法が行われた後の経過において、局所再発等に対し外科的切除の適応と判断した症例に対する根治的治療(サルベージ手術)を行った。薬物療法などの進歩に伴い、近年その有用性が報告され始めた手術であるが、初回治療の影響により、局所の癒着や硬化が強く、高難度な手術である。			
医療技術名	ロボット支援鏡視下肺葉切除	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 Intuitive社のda Vinciを用いたロボット支援下の肺癌に対する肺葉切除術。現在保険適用とはなっているが、術者・助手ともにIntuitive社のCertificateが必要であり、高度な手術である。			
医療技術名	ロボット支援鏡視下縦隔腫瘍手術	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 Intuitive社のda Vinciを用いたロボット支援下の縦隔腫瘍(胸腺上皮性腫瘍や縦隔神経原性腫瘍など)に対する切除術。現在保険適用とはなっているが、術者・助手ともにIntuitive社のCertificateが必要であり、高度な手術である。			

医療技術名	小型肺癌に対するRFID技術を用いた術前マーキング法	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 術中に蝕知不可能な小型肺病変に対し、現在CTガイド下のフックワイヤーを用いたVATSマーカー留置を施行しているが、空気塞栓による脳梗塞のリスクなどとされる。今回、気管支鏡化にICチップを数カ所留置し、術中にプローベを用いてチップの位置を同定しながら手術を行うRFID (Radiofrequency identification) 技術を用いて小型肺癌や転移性肺腫瘍に対して切除を施行した。本技術はこれまで数施設のみ、世界でも(当科で1例目実施時)15例程度のみに行われていない技術である。			
医療技術名	ロボット支援鏡視下肺区域切除	取扱患者数	53
当該医療技術の概要 Intuitive社のda Vinciを用いたロボット支援下の肺癌に対する肺区域切除術。現在保険適用とはなっているが、術者・助手ともにIntuitive社のCertificateが必要であり、ロボット支援鏡視下肺葉切除と同等、もしくはそれ以上に高度な手術である。			
医療技術名	CAD/CAM冠への置換	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 放射線治療(口腔を含む)を受ける患者の金属補綴物をCAD/CAM冠への置換へ置換することにより、放射線粘膜炎が軽減			
医療技術名	口蓋補助床	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 口蓋補助床(PLP、PAP)を用いることにより、嚥下、発音機能を改善する。			
医療技術名	広範囲顎骨支持型装置	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 顎骨欠損、吸収が強い症例にインプラントを用いた義歯を作製し、機能報告させる。			
医療技術名	ロボット補助下子宮体癌手術	取扱患者数	18
当該医療技術の概要 開腹手術や腹腔鏡下手術で行っていた子宮体癌IA期に対する手術をロボット(ダ・ヴィンチ手術システム)支援下に行う。執刀はダ・ヴィンチ手術システムの使用のためにIntuitive Surgical社による認定ライセンスを受けた医師が行う。			
医療技術名	腹腔鏡下広汎(準広汎ふくむ)子宮全摘術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る)の登録施設において、子宮頸癌のIA2期、I B1期、II A1期に適用される技術であり、腹腔鏡で行うことで開腹手術と比較して低侵襲で施行できる。			
医療技術名	ロボット補助下子宮良性腫瘍手術	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 開腹手術や腹腔鏡下手術で行っていた子宮の良性疾患(子宮筋腫や子宮腺筋症)に対する手術をロボット(ダ・ヴィンチ手術システム)支援下に行う。			
医療技術名	ロボット補助下仙骨腔固定術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 骨盤膀胱脱に対してロボット(ダ・ヴィンチ手術システム)支援下に行う低侵襲手術。			
医療技術名	ハイブリッド手術室にて帝王切開同時子宮摘出術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 癒着胎盤手術では帝王切開に続いて子宮摘出術を要するが、術中の多量出血により致死的になる場合がある。事前に判明している場合は、ハイブリッド手術室を用いて手術開始前に内腸骨動脈バルーンカテーテルを留置、手術中の出血量を減少させ、子宮摘出時の術中出血をコントロールできる安全な術中管理が可能である。			
医療技術名	胸腔鏡下食道癌手術	取扱患者数	17
当該医療技術の概要 胸腔鏡下にて食道癌手術を行う。			

医療技術名	ロボット支援下直腸癌手術	取扱患者数	20
当該医療技術の概要			
ロボット支援下に直腸癌手術を行う。			
医療技術名	ロボット支援下胃切除術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
ロボット支援下に胃癌手術を行う。			
医療技術名	生体肝移植術	取扱患者数	10
当該医療技術の概要			
末期肝不全患者に対する臓器移植術。			
医療技術名	脳死肝移植術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
末期肝不全患者に対する臓器移植術。			
医療技術名	血液型不適合生体肝移植術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
生体肝移植術のうち、血液型が不一致不適合の生体ドナーから提供された肝臓を移植する技術で、免疫抑制剤にリツキシマブを追加し、脾摘を加える。			
医療技術名	肝腎同時移植	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
肝臓移植と腎移植を同一患者に同時に行う。			
医療技術名	デュアルグラフト生体肝移植	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
ドナー2人からそれぞれ肝を切除し、1人のレシピエントに移植する。			
医療技術名	薬剤徐放型電極を用いた人工内耳植込術	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
高度難聴に対する人工内耳手術は蝸牛に人工内耳電極を留置するが、本診療では蝸牛内への電極挿入による急性期の炎症、および慢性期の線維化の抑制を目的として開発された「薬剤徐放型人工内耳」を用いて手術を実施する。「薬剤徐放型人工内耳」は通常人工内耳電極に合成抗炎症性グルコルチコイドの一種であるデキサメタゾン徐放するコーティングを行った製品である。コーティング以外の人工内耳電極は既承認品であるMED-EL社製 SYNCHRONY2 FLEX28と完全に同一である。また手術手技は通常人工内耳植込術と同様である。また本診療は臨床研究「薬剤徐放型人工内耳の有効性・安全性の探索的研究」(信州大学医学部 臨床研究審査委員会にて承認済)として実施された。			
医療技術名	心筋症に対する補助人工心臓	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
心筋症における末期心不全において補助人工心臓を用いて補助を行う。			
医療技術名	中心性漿液性脈絡網膜症に対する光線力学療法	取扱患者数	8
当該医療技術の概要			
光感受性物質を点滴し、レーザーを照射する治療。			
医療技術名	フローダイバーター(パイプライン、フレッド)留置術	取扱患者数	9
当該医療技術の概要			
大型かつ広頸の脳動脈瘤に対して行う治療法である。コイルを用いないので、動脈瘤の縮小が期待できる。			
医療技術名	スマート治療室における脳腫瘍手術	取扱患者数	6
当該医療技術の概要			
術中MRIおよび情報統合ミドルウェアを用いた脳腫瘍手術。			

医療技術名	てんかん外科手術	取扱患者数	19
当該医療技術の概要			
難治性てんかんに対する外科手術。			
医療技術名	マイクロアレイ染色体検査	取扱患者数	31
当該医療技術の概要			
マイクロアレイを用いて染色体微細構造の変化を解析し、患者DNAにおけるコピー数の変化を解析する。			
医療技術名	結合織疾患の次世代シーケンス解析	取扱患者数	73
当該医療技術の概要			
次世代シーケンサーを用い、結合織疾患(マルファン症候群, エーラーズ・ダンロス症候群等)患者を対象に、54種の遺伝子を解析している。			
医療技術名	知的障害の次世代シーケンス解析	取扱患者数	18
当該医療技術の概要			
知的障害患者を対象に、次世代シーケンサーを用いて、知的障害関連の80種の遺伝子解析を行っている。			
医療技術名	デスマプレッシン点鼻療法	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
D4ST欠損を伴うエーラーズダンロス症候群患者の巨大皮下血腫に対して、デスマプレッシン点鼻療法を行い、良好な経過を導き出している。			
医療技術名	てんかんの次世代シーケンス解析	取扱患者数	12
当該医療技術の概要			
てんかんの遺伝子解析を行っている。			
医療技術名	循環器疾患の次世代シーケンス解析	取扱患者数	80
当該医療技術の概要			
次世代シーケンサーを用い、循環器疾患(心筋症、QT延長症候群等)患者を対象に多数の候補遺伝子を解析している。心筋症に関する遺伝子解析の臨床応用に関しては日本初の試みである。			
医療技術名	先天異常症候群の次世代シーケンス解析	取扱患者数	25
当該医療技術の概要			
全国の小児病院と協力して、次世代シーケンサーを用いた多数の先天異常症候群の候補遺伝子を解析している。			
医療技術名	エキシマレーザーを用いた下腿動脈形成術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
エキシマレーザーはキセノン媒質として発生するレーザー光で、カテーテル先端からエキシマレーザーを照射することにより、生体組織に熱損傷をきたすことなくプラーク病変を蒸散させ、閉塞した血管を開通することができる。下肢動脈の高度狭窄病変に対してエキシマレーザーを用いた血管形成術を実施している。			
医療技術名	エキシマレーザーを用いた心内リード抜去術	取扱患者数	20
当該医療技術の概要			
ペースメーカーやICDを植え込んだ後、感染症の合併により植え込んだリードを抜去する必要がある場合がある。これまではリードの抜去に開心術が必要で患者の負担が大であったが、エキシマレーザーを用いることにより開心術を行うことなくリード抜去を実施している。			
医療技術名	重症下肢虚血に対する自家骨髄単核球細胞移植	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
重症下肢虚血患者の骨髄液を採取し、精製濃縮した後に患肢に投与する治療。			
医療技術名	がん遺伝子パネル検査に基づくプレシジョンメディスン	取扱患者数	4
当該医療技術の概要			
甲状腺癌において、がん遺伝子パネル検査に組織の一部を提出し、遺伝子の変異を確認して適切な治療を選択する。			

医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下前立腺摘除術	取扱患者数	77
当該医療技術の概要 daVinciシステムを使用した手術			
医療技術名	人工尿道括約筋埋込術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 前立腺癌術後の尿失禁に対する新しいdeviceを使用した手術			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術	取扱患者数	38
当該医療技術の概要 daVinciシステムを使用した手術			
医療技術名	ロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘除術	取扱患者数	11
当該医療技術の概要 daVinciシステムを使用した手術			
医療技術名	腎移植(生体および献腎)	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 慢性腎不全患者に対する生体および献腎移植の実施。			
医療技術名	経気管支凍結生検法	取扱患者数	28
当該医療技術の概要 クライオプローブを用いて、肺組織を凍結させて採取する手技。通常の生検鉗子と比較して大きく良質な検体を採取することが可能である。			
医療技術名	被包化膵壊死に対する内視鏡的壊死組織除去術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要 重症急性膵炎後の感染した壊死組織に対し、内視鏡的に瘻孔を形成し壊死組織を除去する治療。全県から信州大学に紹介を受けている。			
医療技術名	内視鏡的乳頭切除術	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 十二指腸乳頭腫瘍に対して内視鏡的に切除する治療。県内では信州大学医学部附属病院と佐久医療センターで治療が行われている。			
医療技術名	気管支鏡インターベンション	取扱患者数	9
当該医療技術の概要 気道狭窄や気道出血などに対して、気管支鏡的に、バルーンや高周波治療(アルゴンプラズマ凝固法(APC)含む)を用いた気道の拡張や、腫瘍切除を行う。また気道ステント留置も行っている。			
医療技術名	超音波気管支鏡下針生検(EBUS-TBNA)	取扱患者数	55
当該医療技術の概要 気管・気管支周囲リンパ節などの病変に対して、超音波を用いてリアルタイムに、安全で確実な針生検を行うことができる。			
医療技術名	CTガイド下気管支鏡検査	取扱患者数	4
当該医療技術の概要 CTにて病変、気管支鏡の位置を確認しつつ検査を行うことで、CTで指摘された病変から確実に組織検査を行うことができる。			
医療技術名	超音波内視鏡下膵嚢胞ドレナージ術	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 超音波内視鏡下に経胃的に膵嚢胞を穿刺、ドレナージチューブやステントを留置する。			
医療技術名	経口内視鏡的筋層切開術(POEM)	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 食道アカラシアに対する内視鏡を用いて筋層切開を行う新しい治療法。			

医療技術名	消化管腫瘍に対する腹腔鏡内視鏡合同切除(LECS)	取扱患者数	6
当該医療技術の概要 内視鏡のみで切除困難な消化管発生の粘膜下腫瘍や十二指腸腫瘍などに対して腹腔鏡と内視鏡両方を用いて安全に腫瘍を切除できる治療法。			
医療技術名	内視鏡下咽喉頭手術(ELPS)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 早期の咽頭・喉頭腫瘍に対して、耳鼻科医による喉頭展開下に行う内視鏡的な腫瘍切除術。通常の手術と比較して低侵襲な治療法。			
医療技術名	十二指腸腫瘍に対する浸水下内視鏡的切除(Underwater EMR)	取扱患者数	25
当該医療技術の概要 早期の十二指腸腫瘍に対して、腸管内浸水状況下に内視鏡的に粘膜切除を行う方法。従来の内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)と比較して安全性が非常に高く腫瘍の切除が可能である。			
医療技術名	体外式衝撃波結石破碎術(ESWL)	取扱患者数	22
当該医療技術の概要 衝撃波を発赤させる装置を用いて衝撃波エネルギーを体内の結石に照射し、細かく砕く治療。内視鏡での除去困難な膀胱石に対して行う。			
医療技術名	内視鏡的胆道鏡下結石破碎術	取扱患者数	7
当該医療技術の概要 経口胆道鏡下に電気水圧衝撃波を用いて、従来の方法で除去困難な胆管結石を除去する治療。			
医療技術名	バルーン内視鏡を用いてERCP(内視鏡的逆行性膵胆管造影検査)	取扱患者数	49
当該医療技術の概要 胃・胆道・膵術後症例における膵胆管疾患に対して、通常の内視鏡で膵胆管の造影検査が困難な場合にバルーン内視鏡を用いることで検査が可能。			
医療技術名	クライオ生検	取扱患者数	28
当該医療技術の概要 クライオプローブという冷却された器具を用いて、肺組織を凍結して採取する方法。			
医療技術名	超音波内視鏡下胆管/膵管ドレナージ	取扱患者数	15
当該医療技術の概要 経乳頭あるいは経吻合部からの胆管/膵管のドレナージ困難な症例に対して、超音波内視鏡下で経消化管的にドレナージを行うもので、経皮的なドレナージや外科的な治療を回避し得る、より低侵襲な治療法。			
医療技術名	難治性腹水症に対する腹水濾過濃縮再静注法	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 癌腹膜播種や肝硬変などに伴う難治性腹水症に対し、当院では独自の手法による腹水濾過濃縮再静注法(DC-CART)を行っている。この方法により腹水の全量排液、効率の良い蛋白回収率、低い合併症を実現している。			
医療技術名	難治性自己免疫疾患に対する血漿交換療法	取扱患者数	22
当該医療技術の概要 難治性自己免疫疾患に対し、疾患特性や患者の全身状態を考慮し様々な種類の血漿交換(単純血漿交換、二重膜濾過血漿交換、血漿吸着療法)を選択し行っている。			
医療技術名	集中治療における持続血液濾過透析とエンドトキシン吸着療法	取扱患者数	47
当該医療技術の概要 集中治療室における循環動態の不安定な患者に対して持続血液濾過透析やエンドトキシン吸着療法を行っている。			
医療技術名	一酸化窒素療法	取扱患者数	28
当該医療技術の概要 肺高血圧を伴う心臓手術後患者に対する治療。			

医療技術名	体外補助循環	取扱患者数	11
当該医療技術の概要			
心不全を伴う重症患者に対するサポート治療。大動脈バルーンパンピングを用いた治療。			
医療技術名	体外補助循環	取扱患者数	28
当該医療技術の概要			
心不全, 呼吸不全を伴う重症患者に対するサポート治療。PCPS, ECMOを用いた治療。			
医療技術名	体外補助循環	取扱患者数	4
当該医療技術の概要			
心不全, 呼吸不全を伴う重症患者に対するサポート治療。インペラを用いた治療。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	73
取扱い患者数の合計(人)	1,205

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	4	72	下垂体性ADH分泌異常症	10
2	筋萎縮性側索硬化症	14	73	下垂体性TSH分泌亢進症	1
3	脊髄性筋萎縮症	7	74	下垂体性PRL分泌亢進症	3
5	進行性核上性麻痺	4	75	クッシング病	6
6	パーキンソン病	111	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	36
7	大脳皮質基底核変性症	3	78	下垂体前葉機能低下症	65
8	ハンチントン病	1	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	4
10	シャルコー・マリー・トゥース病	6	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
11	重症筋無力症	78	84	サルコイドーシス	55
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	68	85	特発性間質性肺炎	78
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	28	86	肺動脈性肺高血圧症	33
15	封入体筋炎	2	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	33
16	クロー・深瀬症候群	5	89	リンパ脈管筋腫症	9
17	多系統萎縮症	6	90	網膜色素変性症	14
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	60	91	バッド・キアリ症候群	3
19	ライソソーム病	19	92	特発性門脈圧亢進症	2
21	ミトコンドリア病	9	93	原発性胆汁性胆管炎	57
22	もやもや病	18	94	原発性硬化性胆管炎	5
28	全身性アミロイドーシス	205	95	自己免疫性肝炎	12
30	遠位型ミオパチー	2	96	クローン病	114
34	神経線維腫症	34	97	潰瘍性大腸炎	154
35	天疱瘡	12	98	好酸球性消化管疾患	5
37	膿疱性乾癬(汎発型)	7	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	104	コステロ症候群	1
40	高安動脈炎	13	105	チャージ症候群	2
41	巨細胞性動脈炎	2	106	クリオピリン関連周期熱症候群	1
42	結節性多発動脈炎	7	107	全身型若年性特発性関節炎	6
43	顕微鏡的多発血管炎	22	109	非典型溶血性尿毒症症候群	1
44	多発血管炎性肉芽腫症	15	111	先天性ミオパチー	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	15	113	筋ジストロフィー	17
46	悪性関節リウマチ	5	115	遺伝性周期性四肢麻痺	1
47	パージャール病	3	116	アトピー性脊髄炎	1
49	全身性エリテマトーデス	246	117	脊髄空洞症	2
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	112	118	脊髄髄膜瘤	3
51	全身性強皮症	78	122	脳表ヘモジデリン沈着症	1
52	混合性結合組織病	48	124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	1
53	シェーグレン症候群	31	130	先天性無痛無汗症	3
54	成人スチル病	17	131	アレキサンダー病	1
55	再発性多発軟骨炎	2	137	限局性皮質異形成	1
56	ベーチェット病	80	141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	2
57	特発性拡張型心筋症	83	143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	1
58	肥大型心筋症	25	144	レノックス・カストー症候群	1
59	拘束型心筋症	1	145	ウエスト症候群	1
60	再生不良性貧血	19	151	ラスムッセン脳炎	1
61	自己免疫性溶血性貧血	9	154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	2
62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3	158	結節性硬化症	12
63	特発性血小板減少性紫斑病	24	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	7
64	血栓性血小板減少性紫斑病	3	163	特発性後天性全身性無汗症	5
65	原発性免疫不全症候群	16	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
66	IgA腎症	34	167	マルファン症候群	42
67	多発性嚢胞腎	36	168	エーラス・ダンロス症候群	40
68	黄色靱帯骨化症	3	171	ウィルソン病	4
69	後縦靱帯骨化症	60	172	低ホスファターゼ症	1
70	広範脊柱管狭窄症	14	179	ウィリアムズ症候群	2
71	特発性大腿骨頭壊死症	48	181	クルーソン症候群	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
188	多脾症候群	1	330	先天性気管狭窄症	2
189	無脾症候群	5	331	特発性多中心性キャスルマン病	13
193	プラグーウィリ症候群	1			
202	スミス・マギニス症候群	1			
203	22q11.2欠失症候群	3			
207	総動脈幹遺残症	1			
208	修正大血管転位症	3			
209	完全大血管転位症	6			
210	単心室症	4			
211	左心低形成症候群	4			
212	三尖弁閉鎖症	6			
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	6			
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	3			
215	ファロー四徴症	13			
216	両大血管右室起始症	14			
217	エプスタイン病	3			
218	アルポート症候群	4			
220	急速進行性糸球体腎炎	6			
221	抗糸球体基底膜腎炎	1			
222	一次性ネフローゼ症候群	29			
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1			
224	紫斑病性腎炎	2			
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1			
227	オスラー病	8			
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	2			
236	偽性副甲状腺機能低下症	2			
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	1			
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	7			
248	グルコーストランスポーター1欠損症	1			
249	グルタル酸血症1型	1			
257	肝型糖原病	1			
263	脳髄黄色腫症	1			
266	家族性地中海熱	13			
271	強直性脊椎炎	21			
274	骨形成不全症	2			
279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病)	1			
280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	2			
281	クリツペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1			
283	後天性赤芽球癆	2			
284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	1			
286	遺伝性鉄芽球性貧血	1			
288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	7			
291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸型)	1			
296	胆道閉鎖症	7			
297	アラジール症候群	2			
298	遺伝性膀胱炎	1			
300	IgG4関連疾患	15			
304	若年発症型両側性感音難聴	1			
306	好酸球性副鼻腔炎	47			
309	進行性ミオクロームスてんかん	1			
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/LMXIB関連腎症	1			
318	シトリン欠損症	10			
319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	1			
325	遺伝性自己炎症疾患	1			
329	無虹彩症	1			

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	167
合計患者数(人)	2,943

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・情報通信機器を用いた診療に係る基準	・呼吸ケアチーム加算
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・術後疼痛管理チーム加算
・歯科外来診療環境体制加算2	・後発医薬品使用体制加算1
・特定機能病院入院基本料 一般病棟7対1入院基本料	・病棟薬剤業務実施加算1
・特定機能病院入院基本料 精神病棟7対1入院基本料	・病棟薬剤業務実施加算2
・救急医療管理加算	・データ提出加算
・超急性期脳卒中加算	・入退院支援加算
・診療録管理体制加算1	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・医師事務作業補助体制加算1	・精神疾患診療体制加算
・急性期看護補助体制加算	・排尿自立支援加算
・看護職員夜間配置加算	・地域医療体制確保加算
・療養環境加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・重症者等療養環境特別加算	・救命救急入院料2
・無菌治療室管理加算1	・救命救急入院料3
・無菌治療室管理加算2	・特定集中治療室管理料1
・放射線治療病室管理加算(密封小線源による場合)	・ハイケアユニット入院医療管理料1
・緩和ケア診療加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・精神科身体合併症管理加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・摂食障害入院医療管理加算	・小児入院医療管理料4
・栄養サポートチーム加算	・看護職員処遇改善評価料69
・医療安全対策加算1	・入院時食事療養/生活療養(I)
・感染対策向上加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)
・外来栄養食事指導料の注2に規定する基準	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)
・外来栄養食事指導料の注3に規定する基準	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・角結膜悪性腫瘍切除術
・糖尿病合併症管理料	・治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る。))
・がん性疼痛緩和指導管理料	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・がん患者指導管理料イ	・緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・がん患者指導管理料ロ	・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・がん患者指導管理料ハ	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・がん患者指導管理料ニ	・網膜再建術
・外来緩和ケア管理料	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・人工中耳植込術
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・糖尿病透析予防指導管理料	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
・小児運動器疾患指導管理料	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・婦人科特定疾患治療管理料	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
・腎代替療法指導管理料	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・一般不妊治療管理料	・顎関節人工関節全置換術(歯科)
・生殖補助医療管理料1	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・下肢創傷処置管理料	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・院内トリアージ実施料	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・外来放射線照射診療料	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・外来腫瘍化学療法診療料1	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・連携充実加算	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

・ニコチン依存症管理料	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・がん治療連携計画策定料	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・外来排尿自立指導料	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・内視鏡下筋層切開術
・こころの連携指導料(Ⅱ)	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等
・薬剤管理指導料	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・地域連携診療計画加算	・胸腔鏡下弁形成術
・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	・胸腔鏡下弁置換術
・医療機器安全管理料1	・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的動脈弁置換術)
・医療機器安全管理料2	・経皮的僧帽弁クリップ術
・医療機器安全管理料(歯科)	・不整脈手術左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)
・精神科退院時共同指導料1及び2	・不整脈手術左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)
・歯科治療時医療管理料	・磁気ナビゲーション加算
・禁煙治療補助システム指導管理加算	・経皮的中隔心筋焼灼術
・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術
・遺伝学的検査	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
・染色体検査の注2に規定する基準	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・骨髄微小残存病変量測定	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・BRCA1/2遺伝子検査	・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
・がんゲノムプロファイリング検査	・補助人工心臓
・先天性代謝異常症検査	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・経皮的下肢動脈形成術

・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
・検体検査管理加算(I)	・内視鏡的逆流防止粘膜切除術
・検体検査管理加算(IV)	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
・国際標準検査管理加算	・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・遺伝カウンセリング加算	・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・胎児心エコー法	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・ヘッドアップティルト試験	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・人工膵臓検査、人工膵臓療法	・体外衝撃波胆石破碎術
・長期継続頭蓋内脳波検査	・腹腔鏡下肝切除術
・長期脳波ビデオ同時記録検査1	・移植用部分肝採取術(生体)(腹腔鏡によるもの)
・神経学的検査	・生体部分肝移植術
・補聴器適合検査	・同種死体肝移植術
・全視野精密網膜電図	・体外衝撃波膵石破碎術
・ロービジョン検査判断料	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・コンタクトレンズ検査料1	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・小児食物アレルギー負荷検査	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・内服・点滴誘発試験	・内視鏡的小腸ポリープ切除術
・CT透視下気管支鏡検査加算	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経気管支凍結生検法	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・精密触覚機能検査	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・画像診断管理加算1	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・画像診断管理加算2	・同種死体腎移植術
・画像診断管理加算3	・生体腎移植術
・ポジトロン断層撮影	・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

・CT撮影及びMRI撮影	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・冠動脈CT撮影加算	・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
・外傷全身CT加算	・人工尿道括約筋植込・置換術
・心臓MRI撮影加算	・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)
・乳房MRI撮影加算	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・小児鎮静下MRI撮影加算	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・頭部MRI撮影加算	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・全身MRI撮影加算	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)
・肝エラストグラフィ加算	・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・体外式膜型人工肺管理料
・外来化学療法加算1	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・無菌製剤処理料	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮付属器腫瘍摘出術)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・輸血管理料Ⅰ
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・コーディネート体制充実加算
・がん患者リハビリテーション料	・自己生体組織接着剤作成術
・リンパ浮腫複合的治療料	・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
・歯科口腔リハビリテーション料2	・同種クリオプレシピテート作製術
・児童思春期精神科専門管理加算	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・療養生活環境整備指導加算	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・療養生活継続支援加算	・歯周組織再生誘導手術
・精神科作業療法	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・麻酔管理料(Ⅰ)
・医療保護入院等診療料	・麻酔管理料(Ⅱ)
・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)	・周術期薬剤管理加算
・多血小板血漿処置	・放射線治療専任加算
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・外来放射線治療加算
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・高エネルギー放射線治療
・人工腎臓	・一回線量増加加算
・導入期加算3及び腎代替療法実績加算	・強度変調放射線治療(IMRT)

・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	・体外照射呼吸性移動対策加算
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・定位放射線治療
・歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	・保険医療機関間の連携による病理診断
・歯科技工加算1及び2	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・センチネルリンパ節加算	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
・皮膚移植術(死体)	・デジタル病理画像による病理診断
・自家脂肪注入	・病理診断管理加算2
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・腹腔鏡下腭頭部腫瘍切除術
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・椎間板内酵素注入療法	・
・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・
・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	・
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・
・頭蓋内電極植込術(脳深部電極によるもの(7本以上の電極による場合)に限る。)	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 <input checked="" type="radio"/> 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	週1回の検討会…6件 1ヶ月に1回の検討会…2件	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	12
	剖検率(%)	4.15

(注)1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(○で囲む等)こと。

(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
新規心不全治療薬の体内動態の個人差解明に基づく最適投与法の構築	小池 彩花	薬剤部	480,000	補委 日本学術振興会
急性大動脈解離の病態における好中球細胞外トラップの関与	藤村 哲士	臨床検査部	480,000	補委 日本学術振興会
Small-colony variantsが発育可能な薬剤耐性菌スクリーニング寒天培地の開発	根岸 達哉	臨床検査部	410,000	補委 日本学術振興会
脊柱アライメント不良者の動的バランス評価:一般住民対象スクリーニング法の開発	池上 章太	リハビリテーション部	650,000	補委 日本学術振興会
唾液バイオマーカーは術後せん妄の新たな予測因子となりうるか	福家 愛(志村愛)	心臓血管外科	390,000	補委 日本学術振興会
唾液PRPsの加齢に伴う心腎血管病の新規バイオマーカー・治療標的としての意義	樋口 智子	リハビリテーション部	1,300,000	補委 日本学術振興会
薬剤性間質性肺炎のスコアリングシステムによる診断基準の構築とバイオマーカーの同定	牛木 淳人	呼吸器・感染症内科	1,950,000	補委 日本学術振興会
CD8制御性T細胞による臓器移植後免疫寛容をめざした革新的細胞移入療法の開発	野竹 剛	消化器外科	130,000	補委 日本学術振興会
ステントグラフト留置後瘤径拡大の解明-位相差X線CT法による微細構造の検討-	山本 高照	心臓血管外科	910,000	補委 日本学術振興会
新規骨肉腫治療薬の開発 スクレロスタチンの作用機序・作用点・抗癌剤との併用効果解析	岡本 正則	整形外科	780,000	補委 日本学術振興会
新たに合成した子宮内膜癌に対する抗腫瘍性化合物の作用機序の解明	山田 靖	産科婦人科	1,690,000	補委 日本学術振興会
SIRT1を標的とした新規卵巣癌治療の有効性の検討	浅香 亮一	分娩部	1,430,000	補委 日本学術振興会
喘息・COPD患者の包括的な治療応答性評価に基づくプレシジョンメディシンの構築	平井 啓太	薬剤部	1,300,000	補委 日本学術振興会
重症度の異なるゲノム編集マウスを用いた筋ジストロフィー重症化機序に関する研究	宮崎 大吾	脳神経内科	1,430,000	補委 日本学術振興会
Radiomics解析を用いた原発性アルドステロン症の病変局在判定モデルの開発	塚原 嘉典	放射線科	390,000	補委 日本学術振興会
アレルギー性輸血副反応発症機序の全貌解明を目指した患者因子ならびに製剤因子の解析	柳沢 龍	輸血部	1,430,000	補委 日本学術振興会
知的発達症におけるヒストンリジンメチル化の役割の解明	高野 亨子	遺伝子医療研究セン	1,170,000	補委 日本学術振興会
Autophagy-脂肪酸代謝クロストーク変調が腎障害に及ぼす影響についての解析	上條 祐司	血液浄化療法部	1,300,000	補委 日本学術振興会
臍島移植における新規β細胞増殖培養技術の開発	三田 篤義	移植外科	910,000	補委 日本学術振興会
免疫細胞を標的とした新たな遷延性術後痛メカニズムの解明と治療戦略	石田 公美子(松)	麻酔科蘇生科	1,040,000	補委 日本学術振興会
新規画像処理ソフトを用いた人工知能による「くも膜下出血発症予測システム」の開発	小山 淳一	脳血管内治療センタ	780,000	補委 日本学術振興会
ハイスピードビデオカメラを用いた流体力学的排尿機能解析法の開発	皆川 倫範	泌尿器科	1,690,000	補委 日本学術振興会
AI機能搭載クラウド型患者情報共有システムの開発と難病医療支援体制構築への応用	日根野 晃代	脳神経内科	1,820,000	補委 日本学術振興会
高齢心疾患患者の入院から退院後1年間のフレイル変化の実態と予後に関する研究	山本 周平	リハビリテーション部	910,000	補委 日本学術振興会
がん病態におけるオレキシン受容体拮抗薬の体内動態及び臨床効果の個人差要因の解明	内藤 隆文	薬剤部	1,690,000	補委 日本学術振興会
IgG4関連冠動脈周囲炎の因子解明と長期経過による冠動脈径の変化の研究	高橋 正明	放射線科	1,820,000	補委 日本学術振興会
小児固形がんに対するCAR-T細胞とリポソーム化mRNAワクチンによる複合免疫療法の開発	齋藤 章治	小児科	1,430,000	補委 日本学術振興会
バリア機能障害機序とアトピー性皮膚炎発症の関連メカニズムの解明	小川 英作	皮膚科	1,300,000	補委 日本学術振興会
慢性心筋梗塞に対する自家iPS細胞由来心筋細胞移植による心筋再生療法の実用化開発	市村 創	心臓血管外科	2,340,000	補委 日本学術振興会
肺癌に対する多重機能性新規CAR-T細胞療法の開発	三島 修治	呼吸器外科	2,210,000	補委 日本学術振興会
小細胞肺癌に対する二重特異性Ligand型CAR-T細胞を用いた新規治療法の開発	原 大輔	呼吸器外科	2,340,000	補委 日本学術振興会
関節炎の骨髄内病変は痛みの原因か?:骨髄指向性鎮痛法の開発	石田 高志	麻酔科蘇生科	1,820,000	補委 日本学術振興会
Nav1.7阻害薬の局所麻酔薬としての鎮痛作用および運動機能への影響の検討	伊藤 真理子	麻酔科蘇生科	1,950,000	補委 日本学術振興会
人工膝関節置換術後の後十字靭帯の病理組織学的解析と術式決定法の開発	堀内 博志	リハビリテーション部	1,690,000	補委 日本学術振興会
心不全・不整脈発症の予後予測を可能にする次世代遠隔モニタリング・システムの開発	岡田 綾子	循環器内科	1,560,000	補委 日本学術振興会
成人ASDのうつ状態合併のリスク	金子 智喜	放射線科	260,000	補委 日本学術振興会

肺癌の経気腔進展(STAS)における転移機序の解明	江口 隆	呼吸器外科	260,000	補委	日本学術振興会
敗血症患者に対する専従理学療法士配置による早期リハビリテーション効果の検討	酒井 康成	リハビリテーション部	650,000	補委	日本学術振興会
トリプルネガティブ乳癌に対する局所エピジェネティック治療を用いた免疫療法の創出	大場 崇旦	乳腺内分泌外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
肺癌に対する非ウイルス遺伝子改変CAR-T細胞を用いた新規治療法の開発	三浦 健太郎	呼吸器外科	130,000	補委	日本学術振興会
ヒトiPS細胞由来心筋細胞の新規移植方法の開発	小林 秀樹	循環器内科	390,000	補委	日本学術振興会
胸腺腫および関連自己免疫疾患におけるT細胞の網羅的遺伝子解析による免疫異常の解明	川上 徹	血液内科	260,000	補委	日本学術振興会
分葉状頸管腺過形成から子宮頸部胃型粘液性癌発癌過程の解明	井田 耕一	産科婦人科	1,560,000	補委	日本学術振興会
固形がん患者の歯周状態とがん免疫監視機構との関連性に関する検討	酒井 洋徳	特殊歯科・口腔外科	260,000	補委	日本学術振興会
脳腫瘍の組織・解剖学的所見、及びDNA量を相関解析するための新統合システムの確立	藤井 雄	脳神経外科	520,000	補委	日本学術振興会
KRAS変異G12C、G12D選択阻害剤の耐性メカニズムの解明	北沢 将人	消化器外科	910,000	補委	日本学術振興会
アンジオテンシンII受容体/ β アレスチン経路の腎形成における未知の制御機構の解明	松岡 大輔	小児科	1,430,000	補委	日本学術振興会
心血管イメージングを用いたコルヒチンの冠動脈プラークに対する抗炎症作用の評価	植木 康志	循環器内科	520,000	補委	日本学術振興会
重症虚血肢に対する脂肪幹細胞移植と血管内治療における表面マーカーの検討	加藤 太門	循環器内科	780,000	補委	日本学術振興会
心臓交感神経求心路を標的とした心不全進展抑制におけるTRPV1の意義の解明	吉江 幸司	循環器内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
狭窄性腱鞘炎における加齢と閉経が及ぼす複合的な影響の解明	岩川 紘子	整形外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
骨肉腫に対するスクレロステンの抗腫瘍効果機序の解明	出田 宏和	整形外科	2,340,000	補委	日本学術振興会
新規画像処理ソフトを用いた人工知能による革新的「脳梗塞発症予測システム」の開発	花岡 吉亀	脳神経外科	1,040,000	補委	日本学術振興会
機械学習によるテラーメイド型院内急変予測モデルの開発	上條 泰	高度救命救急センター	1,040,000	補委	日本学術振興会
妊婦・授乳婦における新規不眠症治療薬の母乳/胎盤移行性と個人差要因の解明	小澤 秀介	薬剤部	1,560,000	補委	日本学術振興会
児童思春期の神経性やせ症を対象とした日本版マルチファミリーセラピーの開発	公家 里依	子どものこころ診療部	1,950,000	補委	日本学術振興会
遅発性カトニアの新規疾患原因遺伝子変異の探索と包括的遺伝子解析	石田 紗永子(横)	精神科神経科	1,560,000	補委	日本学術振興会
脳波Phase Amplitude Coupling解析を利用した麻酔深度モニターの開発	田中 竜介	麻酔科蘇生科	2,210,000	補委	日本学術振興会
側弯症モデルを用いた矯正手術に必要な椎弓根スクリュー挿入領域と挿入密度の予測	大場 悠己	整形外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
がんの骨転移における至適リハビリテーションシステムの構築	田中 厚誌	整形外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
音声認識・言語情報処理技術を用いた術中教育モデルの確立	金谷 康平	脳神経外科	1,950,000	補委	日本学術振興会
脳クロスモーダル可塑性に基づく効果的な人工内耳術後リハビリテーション法の開発	品川 潤	耳鼻咽喉科頭頸部外科	3,510,000	補委	日本学術振興会
トロンボスポンジン2を介した新規肝線維化メカニズムの解明	木村 岳史	消化器内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
ヒト骨芽細胞の網羅的抗体ライブラリ作製と発現タンパクに基づく細胞分化の解明	吉田 和薫	整形外科	1,430,000	補委	日本学術振興会
パキコイド関連疾患の病態解明と、AM-RAMP2系を標的とした治療法開発	柿原 伸次	眼科	1,430,000	補委	日本学術振興会
CD116陽性急性骨髄性白血病および若年性骨髄単球性白血病を対象とする非ウイルス遺伝子改変GMR CAR-T細胞のFIH医師主導治験(AMED)	中沢 洋三	小児科	100,100,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
イメージングデータを用いた皮膚がん診断ソリューション開発(AMED)	奥山 隆平	皮膚科	76,730,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
HER2陽性の再発・進行骨・軟部肉腫及び婦人科悪性腫瘍を対象とする非ウイルス遺伝子改変HER2 CAR-T細胞の臨床第I相医師主導治験(AMED)	中沢 洋三	小児科	75,920,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
早期爪部メラノーマに対するソフトウェア単体診断補助プログラムの有効性を検証する臨床性能試験(AMED)	皆川 茜	皮膚科	21,979,100	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
IL-12発現型がん治療用ウイルスを用いた悪性黒色腫に対する革新的ウイルス免疫療法開発(AMED橋渡し研究プログラム)	奥山 隆平	皮膚科	103,000,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)
根治切除不能な甲状腺未分化がんに対するニボルマブとレンパチニブ併用療法の第II相試験(NAVIGATION試験)	伊藤 研一	乳腺内分泌外科	800,000	補委	国立研究開発法人国立がん研究センター

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Kinota F, Droma Y, Kobayashi N, et al.	呼吸器・感染症・アレルギー内科	The Contribution of Genetic Variants of the Peroxisome Proliferator-Activated Receptor-Alpha Gene to High-Altitude Hypoxia Adaptation in Sherpa Highlanders	High Alt Med Biol. 2023 Sep;24(3):186-192. doi: 10.1089/ham.2018.0052. Epub 2018 Nov 22.	Original Article
2	Kitamura S, Horiuchi T.	脳神経外科	Superficial temporal artery aneurysm with segmental arterial mediolysis: a case report	Br J Neurosurg. 2023 Oct;37(5):1330-1332. doi: 10.1080/02688697.2020.1867705. Epub 2020 Dec 30.	Case Reports
3	Yamazaki D, Hanaoka Y, Koyama JI, et al.	脳神経外科	Intraspinal canal platform system for coil embolization of anterior spinal artery aneurysm associated with spinal cord arteriovenous malformation: a case report and literature review	Br J Neurosurg. 2023 Dec;37(6):1786-1791. doi: 10.1080/02688697.2021.1910201. Epub 2021 Apr 14.	Review
4	Uehara M, Kuraishi S, Ikegami S, et al.	整形外科	Cervical myelopathy due to amyloid deposition with accompanying cardiac abnormalities	J Spinal Cord Med. 2023 Jul;46(4):697-701. doi: 10.1080/10790268.2022.2027322. Epub 2022 Feb 2.	Case Reports
5	Miyaoka S, Yamazaki H, Hayashi M, et al.	整形外科	Implant removal following open reduction and internal fixation for distal radius fracture: A study based on the Diagnosis Procedure Combination database in Japan	J Orthop Sci. 2023 May;28(3):645-650. doi: 10.1016/j.jos.2022.03.007. Epub 2022 Apr 12.	Original Article
6	Tensho K, Kumaki D, Iwaasa T, et al.	整形外科	Anatomical implications of the subvastus approach on major vascular injury during a distal femoral osteotomy: a computed tomographic venography study	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2023 Apr;31(4):1556-1562. doi: 10.1007/s00167-022-06996-3. Epub 2022 May 14.	Original Article
7	Kanaya K, Horiuchi T.	脳神経外科	Postoperative hematoma can be a risk factor in delayed facial palsy after vestibular schwannoma resection via a retrosigmoid approach: a retrospective single-center cohort study	Acta Neurol Belg. 2023 Oct;123(5):1703-1707. doi: 10.1007/s13760-022-01959-4. Epub 2022 Jun 8.	Original Article
8	Nakajima Y, Yuzuriha S, Nagai F.	形成外科	Longitudinal Morphological Changes in the Mucosal Free Margin After Unilateral Cleft Lip Repair	Cleft Palate Craniofac J. 2023 Dec;60(12):1540-1545. doi: 10.1177/10556656221108851. Epub 2022 Jun 17.	Original Article
9	Oyama K, Ichinohe F, Yamada A, et al.	放射線科	Optimal Temporal Resolution to Achieve Good Image Quality and Perform Pharmacokinetic Analysis in Free-breathing Dynamic Contrast-enhanced MR Imaging of the Pancreas	Magn Reson Med Sci. 2023 Oct 1;22(4):477-485. doi: 10.2463/mrms.mp.2022-0035. Epub 2022 Aug 23.	Original Article

10	Shimodaira H, Tensho K, Koyama S, et al.	整形外科	Effect of a new remnant-preserving technique with anatomical double-bundle anterior cruciate ligament reconstruction on MRI-based graft maturity: a comparison cohort study	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2023 Jun;31(6):2394-2405. doi: 10.1007/s00167-022-07180-3. Epub 2022 Oct 1.	Original Article
11	Kumaki D, Tensho K, Iwaya M, et al.	整形外科	Macroscopic and microscopic findings of multi-folded hamstring grafts of anatomical double-bundle ACL reconstruction 13 years after surgery	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc. 2023 Jun;31(6):2406-2411. doi: 10.1007/s00167-022-07185-y. Epub 2022 Oct 7.	Case Reports
12	Sakai H, Kondo E, Tanaka H, et al.	特殊歯科・口腔外科	COVID-19 transmission in dental practice during the pandemic: A questionnaire-based survey in private dental clinics in Japan	J Dent Sci. 2023 Apr;18(2):497-502. doi: 10.1016/j.jds.2022.09.013. Epub 2022 Oct 1.	Original Article
13	Tanaka S, Kuge RI, Nakano M, et al.	保健学科	Outcomes of an interdisciplinary return to work intervention including occupational therapy for mood and adjustment disorders: A single-arm clinical trial	Work. 2023;74(2):515-530. doi: 10.3233/WOR-211144.	Original Article
14	Okumura T, Noguchi T, Sekiguchi N, et al.	内科学第二	Clinical Analysis of Extrapulmonary Neuroendocrine Carcinoma: A Retrospective and Single Institution Experience	Chemotherapy. 2023;68(2):87-94. doi: 10.1159/000527377. Epub 2022 Nov 3.	Review
15	Komatsu M, Naito K, Chino S, et al.	心臓血管外科	Central extracorporeal membrane oxygenation with left-ventricular vent for fulminant myocarditis: a retrospective study	J Artif Organs. 2023 Dec;26(4):297-302. doi: 10.1007/s10047-022-01371-y. Epub 2022 Nov 8.	Original Article
16	Ueki Y, Kuwahara K.	循環器内科	Periprocedural myocardial infarction in patients undergoing percutaneous coronary intervention	J Cardiol. 2023 Apr;81(4):364-372. doi: 10.1016/j.jcc.2022.11.005. Epub 2022 Nov 12.	Original Article
17	Koide S, Kitajima K, Yamazaki M, et al.	糖尿病・内分泌代謝内科	Hypertrophic Pachymeningitis Associated with Myeloperoxidase-anti-neutrophil Cytoplasmic Antibodies Induced by Propylthiouracil	Intern Med. 2023 Jul 1;62(13):1951-1955. doi: 10.2169/internalmedicine.0692-22. Epub 2022 Nov 16.	Case Reports
18	Yanagisawa R, Tamaki M, Tanoshima R, et al.	輸血部	Risk factors for fatal cardiac complications after allogeneic hematopoietic cell transplantation: Japanese Society for Transplantation and Cellular Therapy transplant complications working group	Hematol Oncol. 2023 Aug;41(3):535-545. doi: 10.1002/hon.3101. Epub 2022 Nov 25.	Original Article
19	Sato M, Shiba N, Miyazaki D, et al.	脳神経内科／リウマチ・膠原病内科	Restoring Dystrophin Expression with Duchenne Muscular Dystrophy Exon 45 Skipping in Induced Pluripotent Stem Cell-Derived Cardiomyocytes	Methods Mol Biol. 2023;2587:141-151. doi: 10.1007/978-1-0716-2772-3_8.	Original Article
20	Nakamura K, Ashida A, Kuniwa Y, et al.	皮膚科	Immune status and prognosis of stage II and III primary malignant melanoma: An analysis including 77 cases of acral lentiginous melanoma	J Dermatol. 2023 Apr;50(4):e121-e122. doi: 10.1111/1346-8138.16650. Epub 2022 Nov 21.	Letter

21	Iwasa YI, Kitoh R, Hiramatsu K, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Impact of Low Skeletal Muscle Mass on the Prognosis of Patients with Head and Neck Cancer Treated Nonsurgically	ORL J Otorhinolaryngol Relat Spec. 2023;85(1):36-43. doi: 10.1159/000527307. Epub 2022 Nov 24.	Original Article
22	Hayashi H, Shimizu A, Kubota K, et al.	消化器・移植・小児外科学分野	A new fistula risk score using sarcopenic obesity and subcutaneous fat area for predicting postoperative pancreatic fistula after pancreaticoduodenectomy	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2023 Jun;30(6):792-801. doi: 10.1002/jhbp.1283. Epub 2022 Dec 12.	Original Article
23	Yasukawa K, Umemura K, Shimizu A, et al.	消化器・移植・小児外科学分野	Impact of large amount of intra-abdominal lavage on surveillance of surgical site infection after hepato-pancreato-biliary surgery: A prospective cohort study	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2023 Jun;30(6):705-713. doi: 10.1002/jhbp.1289. Epub 2022 Dec 14.	Original Article
24	Ashida A, Tomida S, Iwabuchi T, et al.	臨床研究支援センター	Persistent alteration of the skin microbiome in patients with skin rash after receiving EGFR inhibitor treatment	Exp Dermatol. 2023 May;32(5):671-677. doi: 10.1111/exd.14728. Epub 2022 Dec 23.	Original Article
25	Nakamura K, Ashida A, Kuniwa Y, et al.	皮膚科	Analysis of immune-related adverse events correlated with good prognosis in melanoma treatment and fluctuating blood factors	J Dermatol. 2023 Apr;50(4):565-567. doi: 10.1111/1346-8138.16692. Epub 2022 Dec 20.	Original Article
26	Minagawa T, Saito T, Ueno M, et al.	泌尿器科	Initial clinical results of fluid dynamical approach for lower urinary tract function using a high-speed video camera	Int J Urol. 2023 Apr;30(4):415-416. doi: 10.1111/iju.15126. Epub 2022 Dec 21.	Original Article
27	Ohhashi T, Kawai Y, Maejima D, et al.	メディカル・ヘルスイノベーション講座	Physiological Roles of Lymph Flow-Mediated Nitric Oxide in Lymphatic System	Lymphat Res Biol. 2023 Jun;21(3):253-261. doi: 10.1089/lrb.2022.0072. Epub 2022 Dec 26.	Review
28	Koizumi T, Kanda S, Kobayashi T, et al.	血液・腫瘍内科学	Initial Therapeutic Approach with Pembrolizumab in Synchronous Multiple Cancers, Including Non-Small Cell Lung Cancer, Highly Positive for Programmed Death-Ligand 1 Expression	Chemotherapy. 2023;68(3):160-167. doi: 10.1159/000528592. Epub 2022 Dec 28.	Case Reports
29	Iijima Y, Tokumaru S, Kitazawa M, et al.	消化器・移植・小児外科学分野	Gastric glomus tumor resection using laparoscopic endoscopic cooperative surgery: A case report	Asian J Endosc Surg. 2023 Jul;16(3):496-499. doi: 10.1111/ases.13153. Epub 2023 Jan 2.	Case Reports
30	Nakamura S, Kitazawa M, Miyagawa Y, et al.	消化器・移植・小児外科学分野	RhoA G17E/Vav1 Signaling Induces Cancer Invasion via Matrix Metalloproteinase-9 in Gastric Cancer	Technol Cancer Res Treat. 2023 Jan-Dec;22:15330338221146024. doi: 10.1177/15330338221146024.	Original Article
31	Umemura K, Mita A, Ohno Y, et al.	消化器・移植・小児外科学分野	Late-onset Chronic Kidney Disease Over 2 Decades After Pediatric Liver Transplantation: A Single-center, Retrospective Study	Transplantation. 2023 Jul 1;107(7):1535-1544. doi: 10.1097/TP.0000000000004465. Epub 2023 Jan 10.	Original Article

32	Iwaasa T, Takahashi T, Tensho K, et al.	整形外科	Suture Augmentation Does Not Change Biomechanical Properties and Histological Remodeling of Tendon Graft in Anterior Cruciate Ligament Reconstruction: A Study in a Porcine Model	Arthroscopy. 2023 Apr;39(4):1014–1024. doi: 10.1016/j.arthro.2022.10.049. Epub 2023 Jan 9.	Original Article
33	Tajiri M, Kodaira M, Nakamura K, et al.	脳神経内科／リウマチ・膠原病内科	Tongue Hemiatrophy in Multifocal Motor Neuropathy	Intern Med. 2023 Sep 15;62(18):2759–2760. doi: 10.2169/internalmedicine.1329–22. Epub 2023 Jan 15.	Original Article
34	Utsumi M, Motoki N, Yokota S, et al.	小児科	Predictors of a non-response to prophylactic indomethacin for patent ductus arteriosus in preterm infants	Pediatr Neonatol. 2023 Jul;64(4):398–404. doi: 10.1016/j.pedneo.2022.09.015. Epub 2023 Jan 2.	Original Article
35	Maruyama Y, Maejima Y, Hirabayashi K, et al.	小児科	Factors Affecting Day-to-Day Variations in Tacrolimus Concentration among Children and Young Adults Undergoing Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation	Transplant Cell Ther. 2023 Apr;29(4):270.e1–270.e8. doi: 10.1016/j.jtct.2023.01.014. Epub 2023 Jan 19.	Original Article
36	Ichinohe F, Komatsu D, Yamada A, et al.	放射線科	Classification tree analysis to evaluate the most useful magnetic resonance image type in the differentiation between early and progressed hepatocellular carcinoma	Cancer Med. 2023 Apr;12(7):8018–8026. doi: 10.1002/cam4.5589. Epub 2023 Jan 22.	Original Article
37	Sagari A, Tabira T, Maruta M, et al.	保健学科	Risk factors for nursing home admission among older adults: Analysis of basic movements and activities of daily living	PLoS One. 2023 Jan 27;18(1):e0279312. doi: 10.1371/journal.pone.0279312. eCollection 2023.	Original Article
38	Ichinohe F, Oyama K, Yamada A, et al.	放射線科	Usefulness of Breath-Hold Fat-Suppressed T2-Weighted Images With Deep Learning-Based Reconstruction of the Liver: Comparison to Conventional Free-Breathing Turbo Spin Echo	Invest Radiol. 2023 Jun 1;58(6):373–379. doi: 10.1097/RLI.0000000000000943. Epub 2022 Dec 26.	Original Article
39	Uehara M, Ikegami S, Oba H, et al.	整形外科	Frequency and Associated Factors of Postoperative Wound Dehiscence in Posterior Cervical Spine Surgery	World Neurosurg. 2023 Apr;172:e679–e683. doi: 10.1016/j.wneu.2023.02.001. Epub 2023 Feb 9.	Original Article
40	Iwaware T, Kimura T, Nagata Y, et al.	内科学第二	A case of malignant peritoneal mesothelioma with a Fitz-Hugh-Curtis syndrome-like imaging finding	Clin J Gastroenterol. 2023 Jun;16(3):372–376. doi: 10.1007/s12328-023-01770-5. Epub 2023 Feb 13.	Case Reports
41	Kosano M, Kuniwa Y, Mikoshiba A, et al.	皮膚科	Clinical features of pagetoid spread: Analysis of perianal lesions associated with anal canal adenocarcinoma and perianal primary extramammary Paget disease	J Dermatol. 2023 Apr;50(4):546–550. doi: 10.1111/1346-8138.16744. Epub 2023 Feb 16.	Original Article
42	Shimajima Y, Kishida D, Ichikawa T, et al.	脳神経内科／リウマチ・膠原病内科	Features of BAFF and APRIL receptors on circulating B cells in antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis	Clin Exp Immunol. 2023 Jul 5;213(1):125–137. doi: 10.1093/cei/uxad024.	Original Article

43	Chiku Y, Hirano T, Hoshiyama K, et al.	眼科	Impact of local COVID-19 alert levels on rhegmatogenous retinal detachment	Jpn J Ophthalmol. 2023 May;67(3):255-263. doi: 10.1007/s10384-023-00980-1. Epub 2023 Feb 16.	Original Article
44	Yamazaki D, Hanaoka Y, Koyama JI, et al.	脳神経外科	Real-Time Monitoring of Aneurysm Catheterization During Stent-Assisted Coiling for Irregularly Shaped Intracranial Aneurysms: The Scope Technique	World Neurosurg. 2023 May;173:88-93. doi: 10.1016/j.wneu.2023.02.092. Epub 2023 Feb 24.	Case Reports
45	Yoshizawa T, Uehara T, Iwaya M, et al.	消化器・移植・小児外科学分野	IgG4 expression and IgG4/IgG ratio in the tumour invasion front predict long-term outcomes for patients with intrahepatic cholangiocarcinoma	Pathology. 2023 Jun;55(4):508-513. doi: 10.1016/j.pathol.2022.11.007. Epub 2023 Feb 3.	Original Article
46	Yamaguchi N, Kiniwa Y, Hayashi R, et al.	皮膚科	Case of autosomal recessive woolly hair/hypotrichosis with compound heterozygous mutations in the LIPH gene at c.742C > A and c.614A > G: The first Japanese case	J Dermatol. 2023 Aug;50(8):e238-e239. doi: 10.1111/1346-8138.16761. Epub 2023 Feb 28.	Case Reports
47	Sakai H, Notake T, Shimizu A, et al.	消化器・移植・小児外科学分野	Risk factors for postoperative cholangitis after pancreaticoduodenectomy and evaluation of internal stenting on hepaticojejunostomy: A single-center propensity score-based analysis	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2023 Aug;30(8):1065-1077. doi: 10.1002/jhbp.1322. Epub 2023 Mar 23.	Original Article
48	Oba T, Maeno K, Kiyosawa N, et al.	乳腺・内分泌外科	Neutrophil-to-Lymphocyte Ratio Is Associated With the Proportion of Poorly Differentiated Components in Papillary Thyroid Carcinoma	J Surg Res. 2023 Jul;287:47-54. doi: 10.1016/j.jss.2023.01.010. Epub 2023 Mar 1.	Original Article
49	Okumura T, Kimura T, Hihara Y, et al.	内科学第二	Immune thrombocytopenic purpura in primary biliary cholangitis and localized cutaneous systemic sclerosis: case report and literature review	Clin J Gastroenterol. 2023 Jun;16(3):432-437. doi: 10.1007/s12328-023-01776-z. Epub 2023 Mar 4.	Review
50	Yamashita Y, Umemura T, Kimura T, et al.	内科学第二	Prognostic utility of albumin-bilirubin grade in Japanese patients with primary biliary cholangitis	JHEP Rep. 2022 Dec 24;5(4):100662. doi: 10.1016/j.jhepr.2022.100662. eCollection 2023 Apr.	Original Article
51	Kubota K, Sato Y, Iwaya M, et al.	消化器・移植・小児外科学分野	Low-grade mixed neuroendocrine-non-neuroendocrine neoplasm of the extrahepatic bile duct: A rare tumour with 11 years' follow-up before surgery	Pathol Int. 2023 Apr;73(4):173-176. doi: 10.1111/pin.13317. Epub 2023 Mar 7.	Letter
52	Nakamura K, Yoshinaga T, Kodaira M, et al.	遺伝子医療研究センター	Long-term Observation of a Japanese Patient with a Multiple-system Neurodegenerative Disorder with a Uniallelic de novo Missense Variant in KIF1A	Intern Med. 2023 Oct 15;62(20):3047-3051. doi: 10.2169/internalmedicine.1184-22. Epub 2023 Mar 8.	Case Reports
53	Sato M, Mochizuki Y, Takahashi Y, et al.	脳神経内科／リウマチ・膠原病内科	Neurofilament light chain as a biomarker for monitoring response to change in treatment in hereditary ATTR amyloidosis	Amyloid. 2023 Sep;30(3):351-352. doi: 10.1080/13506129.2023.2187678. Epub 2023 Mar 12.	Original Article

54	Oiwa A, Hiwatashi D, Takeda T, et al.	糖尿病・内分泌代謝内科	Efficacy and Safety of Low-dose Spironolactone for Chronic Kidney Disease in Type 2 Diabetes	J Clin Endocrinol Metab. 2023 Aug 18;108(9):2203–2210. doi: 10.1210/clinem/dgad144.	Original Article
55	Yamada S, Maruyama Y, Nakazawa Y.	小児科	Pachydermodactyly	Pediatr Int. 2023 Jan–Dec;65(1):e15529. doi: 10.1111/ped.15529.	Case Reports
56	Yasukawa K, Shimizu A, Ikegami T, et al.	消化器・移植・小児外科学分野	Innovative formulae for the estimation of standard liver volume in the era of widespread imaging analysis software	Clin Transplant. 2023 Jun;37(6):e14976. doi: 10.1111/ctr.14976. Epub 2023 Mar 23.	Original Article
57	Sugiyama Y, Takazawa T, Watanabe N, et al.	麻酔科蘇生科	The Japanese Epidemiologic Study for Perioperative Anaphylaxis, a prospective nationwide study: clinical signs, severity, and therapeutic agents	Br J Anaesth. 2023 Jul;131(1):170–177. doi: 10.1016/j.bja.2023.02.023. Epub 2023 Mar 24.	Original Article
58	Yokota A, Ogiwara T, Hanaoka Y, et al.	脳神経外科	Brain metastasis of chondrosarcoma: A case report and literature review	Radiol Case Rep. 2023 Mar 16;18(5):1939–1944. doi: 10.1016/j.radcr.2023.02.040. eCollection 2023 May.	Case Reports
59	Okada A, Higuchi S, Shoda M, et al.	循環器内科	Utility of a multipurpose catheter for transvenous extraction of old broken leads: A novel technique for fragile leads	Heart Rhythm. 2023 Jul;20(7):976–981. doi: 10.1016/j.hrthm.2023.03.209. Epub 2023 Mar 29.	Original Article
60	Oyake K, Sue K, Sumiya M, et al.	保健学科	Physical Therapists Use Different Motivational Strategies for Stroke Rehabilitation Tailored to an Individual's Condition: A Qualitative Study	Phys Ther. 2023 Jun 5;103(6):pzad034. doi: 10.1093/ptj/pzad034.	Original Article
61	Yoshizawa K, Ohno Y, Kurata T, et al.	消化器・移植・小児外科学分野	Primary leiomyosarcoma of the inferior vena cava in a pediatric case: a case report and literature review	Surg Case Rep. 2023 Apr 6;9(1):52. doi: 10.1186/s40792-023-01630-x.	Original Article
62	Kato T, Ueki Y, Minamisawa M, et al.	循環器内科	Association between complete revascularization of the coronary artery and clinical outcomes in peripheral artery disease: a sub-analysis of the I-PAD Nagano registry	Heart Vessels. 2023 Aug;38(8):1001–1008. doi: 10.1007/s00380-023-02251-y. Epub 2023 Apr 13.	Original Article
63	Ikegami S, Nishimura H, Oba H, et al.	整形外科	Reliability and validity of gait dynamic balance assessment in adult spinal deformity patients using a two-point trunk motion measuring device	Spine J. 2023 Jul;23(7):1045–1053. doi: 10.1016/j.spinee.2023.04.003. Epub 2023 Apr 12.	Original Article
64	Shimojima Y, Sekijima Y.	脳神経内科／リウマチ・膠原病内科	Hypertrophic pachymeningitis in ANCA-associated vasculitis: Clinical and immunopathological features and insights	Autoimmun Rev. 2023 Jun;22(6):103338. doi: 10.1016/j.autrev.2023.103338. Epub 2023 Apr 14.	Original Article
65	Umemura T, Wattanakamolkul K, Nakayama Y, et al.	内科学第二	Real-World Epidemiology, Clinical and Economic Burden of Chronic Hepatitis B in Japan: A Retrospective Study Using JMDC Claims Database	Infect Dis Ther. 2023 May;12(5):1337–1349. doi: 10.1007/s40121-023-00795-0. Epub 2023 Apr 17.	Original Article

66	Abe D, Hanaoka Y, Koyama JI, et al.	脳神経外科	Bilateral transradial access using a 3-Fr guiding sheath for coil embolization of basilar artery aneurysms associated with challenging vertebral artery anatomy: An initial experience and future prospects	Interv Neuroradiol. 2023 Apr 18;15910199231168167. doi: 10.1177/15910199231168167. Online ahead of print.	Letter
67	Yokota S, Yoshimura H, Shirai K, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Feasibility and limitations of head MRI in patients with cochlear implants	Auris Nasus Larynx. 2023 Dec;50(6):874-879. doi: 10.1016/j.anl.2023.04.001. Epub 2023 Apr 17.	Original Article
68	Shinagawa J, Yoshimura H, Nishio SY, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	The relationship between preoperative factors and the pattern of longitudinal improvement in speech perception following cochlear implantation	Acta Otolaryngol. 2023 May;143(5):402-407. doi: 10.1080/00016489.2023.2200850. Epub 2023 Apr 21.	Original Article
69	Kiyosawa N, Koyama M, Miyagawa Y, et al.	消化器・移植・小児外科学分野	Goblet cell adenocarcinoma of the appendix: A case report of three cases	Int J Surg Case Rep. 2023 May;106:108229. doi: 10.1016/j.ijscr.2023.108229. Epub 2023 Apr 18.	Original Article
70	Hayashi H, Shimizu A, Kubota K, et al.	消化器・移植・小児外科学分野	Accuracy and limitations of preoperative assessment of longitudinal spread of perihilar cholangiocarcinoma	Asian J Surg. 2023 Nov;46(11):4743-4748. doi: 10.1016/j.asjsur.2023.03.166. Epub 2023 Apr 19.	Original Article
71	Masuda Y, Mita A, Ohno Y, et al.	消化器・移植・小児外科学分野	De Novo Malignancy After Adult-to-Adult Living Donor Liver Transplantation: A Single-Center Long-Term Experience	Transplant Proc. 2023 May;55(4):952-955. doi: 10.1016/j.transproceed.2023.03.044. Epub 2023 Apr 21.	Original Article
72	Iwabuchi R, Harada M, Yamada A, et al.	腎臓内科	Anti-SARS-CoV-2 IgG antibody titer after BNT162b2 mRNA COVID-19 vaccination in Japanese patients who underwent renal replacement therapy, hemodialysis, peritoneal dialysis, and kidney transplantation	Clin Exp Nephrol. 2023 Aug;27(8):660-671. doi: 10.1007/s10157-023-02348-8. Epub 2023 Apr 24.	Original Article
73	Murakami T, Ishida T, Tanaka S, et al.	麻酔科蘇生科	Inflammation and subsequent nociceptor sensitization in the bone marrow are involved in an animal model of osteoarthritis pain	Life Sci. 2023 Jul 1;324:121736. doi: 10.1016/j.lfs.2023.121736. Epub 2023 Apr 28.	Original Article
74	Shimura M, Miura K, Koizumi T, et al.	呼吸器外科	Successful resection after first-line lenvatinib therapy in an advanced thymic carcinoma	Thorac Cancer. 2023 Jun;14(17):1640-1643. doi: 10.1111/1759-7714.14913. Epub 2023 May 2.	Case Reports
75	Tanaka A, Okamoto M, Kito M, et al.	整形外科	Muscle strength and functional recovery for soft-tissue sarcoma of the thigh: a prospective study	Int J Clin Oncol. 2023 Jul;28(7):922-927. doi: 10.1007/s10147-023-02348-4. Epub 2023 May 3.	Original Article
76	Kitagawa T, Hayashi M.	保健学科	mHealth for the Self-management of Knee Osteoarthritis: Scoping Review	J Med Internet Res. 2023 May 8;25:e38798. doi: 10.2196/38798.	Original Article
77	Yamada A, Kamagata K, Hirata K, et al.	放射線科	Clinical applications of artificial intelligence in liver imaging	Radiol Med. 2023 Jun;128(6):655-667. doi: 10.1007/s11547-023-01638-1. Epub 2023 May 10.	Original Article

78	Abe D, Hanaoka Y, Koyama JI, et al.	脳神経外科	New Cerebral Embolic Protection System for Endovascular Revascularization of Stenosis at the Origin of the Right Common Carotid Artery: the Counterflow Technique	Clin Neuroradiol. 2023 Sep;33(3):857–864. doi: 10.1007/s00062–023–01290–2. Epub 2023 May 12.	Letter
79	Fukamatsu F, Sugiura K, Takekoshi D, et al.	放射線科	A ruptured splenic artery aneurysm treated by transcatheter arterial embolization using n-butyl cyanoacrylate–Lipiodol–Iopamidol	Radiol Case Rep. 2023 Apr 29;18(7):2385–2390. doi: 10.1016/j.radcr.2023.04.005. eCollection 2023 Jul.	Case Reports
80	Kito M, Ae K, Okamoto M, et al.	整形外科	Clinical Outcome of Low-Grade Myofibroblastic Sarcoma in Japan: A Multicenter Study from the Japanese Musculoskeletal Oncology Group	Cancers (Basel). 2023 Apr 15;15(8):2314. doi: 10.3390/cancers15082314.	Original Article
81	Tsukahara Y, Todoroki K, Suzuki T, et al.	放射線科	Can expiratory or inspiratory contrast-enhanced computed tomography be more efficient for fast-track cannulation of the right adrenal vein in adrenal venous sampling?	Diagn Interv Radiol. 2023 Jul 20;29(4):640–646. doi: 10.4274/dir.2023.222045. Epub 2023 May 16.	Original Article
82	Sekijima Y.	脳神経内科／リウマチ・膠原病内科	[Drugs under Development (Neurology)]	Brain Nerve. 2023 May;75(5):427–432. doi: 10.11477/mf.1416202354.	Original Article
83	Hanaoka Y, Inomata Y, Koyama JI, et al.	脳神経外科	Letter: Transradial Flow-Diverting Stent Placement Through an Arteria Lusoria: 2-Dimensional Operative Video	Oper Neurosurg (Hagerstown). 2023 Aug 1;25(2):e116–e117. doi: 10.1227/ons.0000000000000771. Epub 2023 May 17.	Letter
84	Kitajima K, Oiwa A, Miyakoshi T, et al.	糖尿病・内分泌代謝内科	Interval walking training in type 2 diabetes: A pilot study to evaluate the applicability as exercise therapy	PLoS One. 2023 May 18;18(5):e0285762. doi: 10.1371/journal.pone.0285762. eCollection 2023.	Original Article
85	Kobayashi S, Biyajima K, Matsuzawa S, et al.	血液・腫瘍内科学	Acute leukemias in pregnant women: Results of a retrospective study at a local tertiary-care hospital in Japan	EJHaem. 2023 Apr 5;4(2):393–400. doi: 10.1002/jha2.682. eCollection 2023 May.	Original Article
86	Yamaguchi T, Hayashi S, Nagai S, et al.	遺伝子医療研究センター	Case report: further delineation of AEBP1-related Ehlers–Danlos Syndrome (classical-like EDS type 2) in an additional patient and comprehensive clinical and molecular review of the literature	Front Genet. 2023 May 5;14:1102101. doi: 10.3389/fgene.2023.1102101. eCollection 2023.	Case Reports
87	Ono M, Miyamoto T, Asaka R, et al.	産科婦人科	Establishment of a novel model of endometriosis-associated ovarian cancer by transplanting uterine tissue from Arid1a/Pten knockout mice	Sci Rep. 2023 May 23;13(1):8348. doi: 10.1038/s41598–023–35292–4.	Original Article
88	Kanai R, Uehara T, Yoshizawa T, et al.	臨床検査部	ARL4C is associated with epithelial-to-mesenchymal transition in colorectal cancer	BMC Cancer. 2023 May 26;23(1):478. doi: 10.1186/s12885–023–10958–4.	Original Article
89	Sakai Y, Yamaga T, Yamamoto S, et al.	リハビリテーション部	Effects and Usefulness of Inspiratory Muscle Training Load in Patients with Advanced Lung Cancer with Dyspnea	J Clin Med. 2023 May 10;12(10):3396. doi: 10.3390/jcm12103396.	Original Article

90	Yamanaka E, Horiuchi Y, Nojima I.	保健学科	EMG-EMG coherence during voluntary control of human standing tasks: a systematic scoping review	Front Neurosci. 2023 May 12;17:1145751. doi: 10.3389/fnins.2023.1145751. eCollection 2023.	Review
91	Sha Y, Yoshimura H, Saito S, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	A case of hematohidrosis successfully treated with a beta-blocker	Clin Case Rep. 2023 May 28;11(6):e7337. doi: 10.1002/ccr3.7337. eCollection 2023 Jun.	Case Reports
92	Ohkubo Y, Yamazaki M, Shimada Y, et al.	糖尿病・内分泌代謝内科	Rare Coexistence of Aldosterone-producing Adrenocortical Adenoma Confirmed by an Immunohistochemical Analysis of Steroidogenic Enzymes with Adrenal Ectopic Thyroid Tissue: A Case Report and Literature Review	Intern Med. 2024 Jan 15;63(2):259-264. doi: 10.2169/internalmedicine.1630-23. Epub 2023 May 31.	Review
93	Arai N, Kajihara R, Takasaka M, et al.	メディカル・ヘルスイノベーション講座	Cell surface ATP synthase-released H(+) and ATP play key roles in cocoa butter intake-mediated regulation of gut immunity through releases of cytokines in rat	Pflugers Arch. 2023 Aug;475(8):945-960. doi: 10.1007/s00424-023-02822-y. Epub 2023 Jun 1.	Original Article
94	Nakamura T, Hanaoka Y, Koyama JI, et al.	脳神経外科	Surgical Trapping of a Cavernous Carotid Aneurysm Causing Carotid Cavernous Fistula After Flow Diverter Placement: Technical Note and Literature Review	World Neurosurg. 2023 Jun 1;177:31-38. doi: 10.1016/j.wneu.2023.05.095. Online ahead of print.	Original Article
95	Okumura T, Joshita S, Yamazaki T, et al.	内科学第二	HLA-G susceptibility to hepatitis B infection and related hepatocellular carcinoma in the Japanese population	Hum Immunol. 2023 Aug;84(8):401-407. doi: 10.1016/j.humimm.2023.05.002. Epub 2023 Jun 2.	Original Article
96	Araki T, Kanda S, Horinouchi H, et al.	呼吸器・感染症・アレルギー内科	Current treatment strategies for EGFR-mutated non-small cell lung cancer: from first line to beyond osimertinib resistance	Jpn J Clin Oncol. 2023 Jun 29;53(7):547-561. doi: 10.1093/jjco/hyad052.	Review
97	Oyake K, Yamauchi K, Inoue S, et al.	保健学科	A multicenter explanatory survey of patients' and clinicians' perceptions of motivational factors in rehabilitation	Commun Med (Lond). 2023 Jun 6;3(1):78. doi: 10.1038/s43856-023-00308-7.	Original Article
98	Yasukawa K, Shimizu A, Kubota K, et al.	消化器・移植・小児外科学分野	Clinical characteristics, prognosis, and surgical outcomes of patients with non-HBV and non-HCV related hepatocellular carcinoma: three-decade observational study	BMC Gastroenterol. 2023 Jun 8;23(1):200. doi: 10.1186/s12876-023-02833-0.	Original Article
99	Nojima I, Horiba M, Sahashi K, et al.	保健学科	Gait-combined closed-loop brain stimulation can improve walking dynamics in Parkinsonian gait disturbances: a randomised-control trial	J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2023 Nov;94(11):938-944. doi: 10.1136/jnnp-2022-329966. Epub 2023 Jun 9.	Original Article
100	Lu YU, Miyamoto T, Takeuchi H, et al.	産科婦人科	PPAR α activator irbesartan suppresses the proliferation of endometrial carcinoma cells via SREBP1 and ARID1A	Oncol Res. 2023 May 24;31(3):239-253. doi: 10.32604/or.2023.026067. eCollection 2023.	Original Article

101	Al-Kzayer LFY, Saeed RM, Ghali HH, et al.	小児科	Comprehensive genetic analyses of childhood acute leukemia in Iraq using next-generation sequencing	Transl Pediatr. 2023 May 30;12(5):827-844. doi: 10.21037/tp-22-512. Epub 2023 Apr 20.	Original Article
102	Oba H, Takahashi J, Ohba T, et al.	整形外科	Authors' Response to Letter to the Editor. Fake Union	Spine Surg Relat Res. 2023 Mar 13;7(3):295-296. doi: 10.22603/ssrr.2022-0214. eCollection 2023 May 27.	Original Article
103	Ebisawa S, Tanaka H, Muramatsu T, et al.	循環器内科	Impact of minimum contrast media volumes during percutaneous coronary intervention for chronic total occlusion lesion	Heart Vessels. 2023 Sep;38(9):1108-1116. doi: 10.1007/s00380-023-02270-9. Epub 2023 Jun 13.	Original Article
104	Nakamura K, Mukai S, Takezawa Y, et al.	脳神経内科／リウマチ・膠原病内科	Clinical utility of urinary mulberry bodies/cells testing in the diagnosis of Fabry disease	Mol Genet Metab Rep. 2023 Jun 7;36:100983. doi: 10.1016/j.ymgmr.2023.100983. eCollection 2023 Sep.	Original Article
105	Matsuno A, Matsushima A, Saito M, et al.	脳神経内科／リウマチ・膠原病内科	Quantitative assessment of the gait improvement effect of LSVT BIG® using a wearable sensor in patients with Parkinson's disease	Heliyon. 2023 Jun 3;9(6):e16952. doi: 10.1016/j.heliyon.2023.e16952. eCollection 2023 Jun.	Original Article
106	Hondo N, Kitazawa M, Koyama M, et al.	消化器・移植・小児外科学分野	MEK inhibitor and anti-EGFR antibody overcome sotorasib resistance signals and enhance its antitumor effect in colorectal cancer cells	Cancer Lett. 2023 Jul 28;567:216264. doi: 10.1016/j.canlet.2023.216264. Epub 2023 Jun 17.	Original Article
107	Hanaoka Y, Inomata Y, Koyama JI, et al.	脳神経外科	Use of the Simmons guiding sheath via left transradial access as a feasible strategy for neurointerventions in patients with an aberrant right subclavian artery	J Neurointerv Surg. 2023 Nov;15(11):1165. doi: 10.1136/jnis-2023-020539. Epub 2023 Jun 19.	Letter
108	Sano K, Asahina M, Araki N, et al.	臨床検査部	Type 1 interferon signature and cytotoxic T lymphocyte activation targeted against sweat ducts in inflammatory acquired idiopathic generalized anhidrosis	J Eur Acad Dermatol Venereol. 2023 Oct;37(10):2124-2132. doi: 10.1111/jdv.19284. Epub 2023 Jul 4.	Original Article
109	Suzuki Y, Hanaoka Y, Inomata Y, et al.	脳神経外科	A rare pure intraventricular hemorrhage caused by ruptured internal carotid artery-anterior choroidal artery aneurysm: a case report and literature review	Nagoya J Med Sci. 2023 May;85(2):343-349. doi: 10.18999/nagjms.85.2.343.	Review
110	Kito M, Tsukahara Y, Okamoto M, et al.	整形外科	Does re-ossification after palliative radiotherapy for spinal bone metastases help maintain vertebral body height?	Spine J. 2023 Oct;23(10):1540-1548. doi: 10.1016/j.spinee.2023.06.389. Epub 2023 Jun 21.	Original Article
111	Furuhata-Yoshimura M, Yamaguchi T, Izu Y, et al.	遺伝子医療研究センター	Homozygous splice site variant affecting the first von Willebrand factor A domain of COL12A1 in a patient with myopathic Ehlers-Danlos syndrome	Am J Med Genet A. 2023 Oct;191(10):2631-2639. doi: 10.1002/ajmg.a.63328. Epub 2023 Jun 23.	Case Reports

112	Kasai A, Motobayashi M, Nishioka M, et al.	遺伝子医療研究センター	A serial analysis of serum aspartate aminotransferase levels in patients with acute encephalopathy with biphasic seizures and late reduced diffusion and prolonged febrile seizure	Brain Dev. 2023 Oct;45(9):487–494. doi: 10.1016/j.braindev.2023.06.003. Epub 2023 Jun 23.	Original Article
113	Okumura T, Joshita S, Iwadare T, et al.	内科学第二	Kinetics of serum O-glycosylated M-hepatitis B surface antigen with hepatocellular carcinoma history and nucleos(t)ide analogue therapy in hepatitis B patients	J Viral Hepat. 2023 Sep;30(9):731–739. doi: 10.1111/jvh.13869. Epub 2023 Jun 26.	Original Article
114	Nasuno M, Yokoyama Y, Motobayashi M, et al.	遺伝子医療研究センター	Targeted temperature management at 36° C is a risk factor for ventilator-associated pneumonia	Pediatr Int. 2023 Jan–Dec;65(1):e15556. doi: 10.1111/ped.15556.	Original Article
115	Uehara M, Takahashi J, Kosho T.	整形外科	Spinal Deformity in Ehlers–Danlos Syndrome: Focus on Musculocontractural Type	Genes (Basel). 2023 May 27;14(6):1173. doi: 10.3390/genes14061173.	Original Article
116	Eguchi T.	呼吸器外科	Personalized Medicine in Thoracic Surgery: The Role and Future of Robotic-Assisted Techniques	J Pers Med. 2023 Jun 13;13(6):986. doi: 10.3390/jpm13060986.	Others
117	Iwaya M, Hayashi Y, Sakai Y, et al.	臨床検査部	Artificial intelligence for evaluating the risk of gastric cancer: reliable detection and scoring of intestinal metaplasia with deep learning algorithms	Gastrointest Endosc. 2023 Dec;98(6):925–933.e1. doi: 10.1016/j.gie.2023.06.056. Epub 2023 Jun 29.	Original Article
118	Oba H, Ikegami S, Uehara M, et al.	整形外科	Reduction in CT scan number with the reference frame middle attachment method in intraoperative CT navigation for adolescent idiopathic scoliosis	Eur Spine J. 2023 Sep;32(9):3133–3139. doi: 10.1007/s00586–023–07842–x. Epub 2023 Jul 3.	Original Article
119	Motoki N, Morota H, Shibazaki T, et al.	小児科	Familial and lifestyle factors related to physical activity in elementary school students: a cross-sectional study based on a nationally representative survey in Japan	BMC Pediatr. 2023 Jul 4;23(1):338. doi: 10.1186/s12887–023–04162–3.	Original Article
120	Hirano T, Kumazaki A, Tomihara R, et al.	眼科	Evaluating initial responses to brolicizumab in patients undergoing conventional anti-VEGF therapy for diabetic macular edema: a retrospective, single-center, observational study	Sci Rep. 2023 Jul 5;13(1):10901. doi: 10.1038/s41598–023–37726–5.	Original Article
121	Nakamura T, Yoshizawa T, Toya R, et al.	精神科	Orexin receptor antagonists versus antipsychotics for the management of delirium in intensive care unit patients with cardiovascular disease: A retrospective observational study	Gen Hosp Psychiatry. 2023 Sep–Oct;84:96–101. doi: 10.1016/j.genhosppsy.2023.06.019. Epub 2023 Jul 1.	Original Article

122	Sonehara K, Ozawa R, Hama M, et al.	呼吸器・感染症・アレルギー内科	Predictive Factors Associated with Long-Term Response to Combination Immunotherapy in Patients with Untreated Advanced Non-Small-Cell Lung Cancer: A Multicenter Retrospective Study	Oncology. 2023;101(7):425-434. doi: 10.1159/000531324. Epub 2023 Jul 7.	Original Article
123	Iwaasa T, Tensho K, Takahashi T, et al.	整形外科	Anatomical Double-Bundle Anterior Cruciate Ligament Reconstruction With Suture Augmentation	Arthrosc Tech. 2023 May 15;12(6):e931-e936. doi: 10.1016/j.eats.2023.02.029. eCollection 2023 Jun.	Original Article
124	Araki T, Kanda S, Komatsu M, et al.	呼吸器・感染症・アレルギー内科	Rechallenge of afatinib for EGFR-mutated non-small cell lung cancer previously treated with osimertinib: a multicenter phase II trial protocol (REAL study)	Transl Lung Cancer Res. 2023 Jun 30;12(6):1320-1327. doi: 10.21037/tlcr-23-12. Epub 2023 Jun 15.	Original Article
125	Machida K, Minamisawa M, Motoki H, et al.	循環器内科	Clinical Profile and Prognosis of Dementia in Patients With Acute Decompensated Heart Failure - From the CURE-HF Registry	Circ J. 2023 Dec 25;88(1):93-102. doi: 10.1253/circj.CJ-23-0129. Epub 2023 Jul 12.	Original Article
126	Morikawa H, Oba T, Kiyosawa N, et al.	乳腺・内分泌外科	Significance of skeletal muscle index-to-body mass index ratio as a predictor of post-surgical bleeding after mastectomy in patients with breast cancer	Breast Cancer. 2023 Nov;30(6):933-942. doi: 10.1007/s12282-023-01483-0. Epub 2023 Jul 13.	Original Article
127	Muranaka F, Kitazawa M, Iwaya Y, et al.	消化器・移植・小児外科学分野	Transmesenteric approach for laparoscopic endoscopic cooperative surgery for a duodenal adenoma located in the third portion of the duodenum	Asian J Endosc Surg. 2023 Oct;16(4):822-826. doi: 10.1111/ases.13228. Epub 2023 Jul 13.	Case Reports
128	Ishida K, Maruyama Y, Yoshiyama Y, et al.	麻酔科蘇生科	Alkalized lidocaine in a tapered cuff suppresses endotracheal tube-induced hemodynamic changes: a randomized controlled trial	J Anesth. 2023 Oct;37(5):726-733. doi: 10.1007/s00540-023-03224-1. Epub 2023 Jul 14.	Original Article
129	Honda H, Sasayama D, Niimi T, et al.	子どものこころの発達医学	Awareness of children's developmental problems and sharing of concerns with parents by preschool teachers and childcare workers: The Japanese context	Child Care Health Dev. 2024 Jan;50(1):e13153. doi: 10.1111/cch.13153. Epub 2023 Jul 17.	Original Article
130	Kitamura Y, Kato H, Hayashi M, et al.	整形外科	Prevalence and Associated Factors for Primary Osteoarthritis of the Scaphotrapeziotrapezoid, Radiocarpal, and Distal Radioulnar Joints in the Japanese General Elderly Population	J Hand Surg Am. 2023 Jul 17:S0363-5023(23)00260-5. doi: 10.1016/j.jhssa.2023.05.009. Online ahead of print.	Original Article
131	Ogiwara T, Kitamura S, Goto T, et al.	脳神経外科	The efficacy of a visiting surgical service versus that of a hospital-based surgical service in providing endoscopic endonasal surgery to remove nonfunctioning pituitary adenomas in rural communities	Pituitary. 2023 Aug;26(4):521-528. doi: 10.1007/s11102-023-01338-z. Epub 2023 Jul 21.	Original Article

132	Kimura F, Ohshima K, Shirai K, et al.	保健学科	Discriminant Analysis Using Gabor Filter Sets for Lobular Endocervical Glandular Hyperplasia: Numerical Interpretation of Nuclear Atypia by Gabor Filter Features	Acta Cytol. 2023;67(5):539-549. doi: 10.1159/000533255. Epub 2023 Jul 27.	Original Article
133	Itoh H, Yamashita N, Kamijo S, et al.	薬剤部	Effects of acidic non-steroidal anti-inflammatory drugs on human cytochrome P450 4A11 activity: Roles of carboxylic acid and a sulfur atom in potent inhibition by sulindac sulfide	Chem Biol Interact. 2023 Sep 1;382:110644. doi: 10.1016/j.cbi.2023.110644. Epub 2023 Jul 25.	Original Article
134	Yamamoto Y, Kitazawa M, Otsubo T, et al.	消化器・移植・小児外科学分野	Comparison of Short-term Outcomes Between Esophageal Bypass Surgery and Self-expanding Stent Insertion in Esophageal Cancer: A Propensity Score-matched Analysis Using a Large-scale Inpatient Database	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech. 2023 Aug 1;33(4):395-401. doi: 10.1097/SLE.0000000000001198.	Original Article
135	Inomata Y, Hanaoka Y, Koyama JI, et al.	脳神経外科	Left Transradial Access Using a Radial-Specific Neurointerventional Guiding Sheath for Coil Embolization of Anterior Circulation Aneurysm Associated With the Aberrant Right Subclavian Artery: Technical Note and Literature Review	World Neurosurg. 2023 Oct;178:126-131. doi: 10.1016/j.wneu.2023.07.107. Epub 2023 Jul 26.	Review
136	Shimizu S, Tanaka S, Ishida T, et al.	麻酔科蘇生科	Ninety-day mortality of extremely elderly patients undergoing hip fracture surgery and its association with preoperative cardiac function: a single-center retrospective study	J Anesth. 2023 Oct;37(5):755-761. doi: 10.1007/s00540-023-03230-3. Epub 2023 Jul 31.	Original Article
137	Kanai M, Minamisawa M, Motoki H, et al.	循環器内科	Prognostic Impact of Hyperpolypharmacy Due to Noncardiovascular Medications in Patients After Acute Decompensated Heart Failure – Insights From the Clue of Risk Stratification in the Elderly Patients With Heart Failure (CURE-HF) Registry	Circ J. 2023 Dec 25;88(1):33-42. doi: 10.1253/circj.CJ-22-0712. Epub 2023 Aug 4.	Original Article
138	Yasukawa K, Shimizu A, Kubota K, et al.	消化器・移植・小児外科学分野	For safe and fast surgery: Utilization of the SAND balloon catheter for acute cholecystitis	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2023 Sep;30(9):1141-1151. doi: 10.1002/jhbp.1346. Epub 2023 Aug 7.	Original Article
139	Hongo K, Sakai K, Goto T, et al.	脳神経外科	Injury of the Internal Carotid Artery During Dissection of a Craniopharyngioma via the Pterional Approach: Case Report	Acta Neurochir Suppl. 2023;130:37-40. doi: 10.1007/978-3-030-12887-6_5.	Case Reports
140	Goto T, Ogiwara T, Kanaya K, et al.	脳神経外科	Postoperative Intratumoral or Peritumoral Hematomas After Vestibular Schwannoma Resection	Acta Neurochir Suppl. 2023;130:47-52. doi: 10.1007/978-3-030-12887-6_7.	Case Reports
141	Kitahara J, Kakihara S, Mukawa S, et al.	眼科	Long-term surgical results of trabeculectomy for secondary glaucoma in Val30Met hereditary transthyretin amyloidosis	Sci Rep. 2023 Aug 7;13(1):12755. doi: 10.1038/s41598-023-40029-4.	Original Article

142	Yanagisawa R, Usami Y, Ide Y, et al.	輸血部	Fever accompanied by basophil activation in response to transfused blood products in an adult patient	Transfusion. 2023 Aug;63(8):1613–1615. doi: 10.1111/trf.17457.	Letter
143	Kishida D, Nakamura A, Yazaki M, et al.	脳神経内科／リウマチ・膠原病内科	Variables for differential diagnosis of familial Mediterranean fever: multiple correspondence analysis of a large Japanese cohort	Mod Rheumatol. 2023 Aug 12:road084. doi: 10.1093/mr/road084. Online ahead of print.	Original Article
144	Kaneko T, Nakamura T, Ryokawa A, et al.	放射線科	Connective differences between patients with depression with and without ASD: A case-control study	PLoS One. 2023 Aug 15;18(8):e0289735. doi: 10.1371/journal.pone.0289735. eCollection 2023.	Original Article
145	Miura K, Eguchi T, Ide S, et al.	呼吸器外科	Bronchial branching patterns and volumetry in the right upper lobe: impact on segmentectomy planning	Interdiscip Cardiovasc Thorac Surg. 2023 Sep 2;37(3):ivad136. doi: 10.1093/icvts/ivad136.	Original Article
146	Kobayashi Y, Ozawa N, Yoshida T, et al.	臨床工学部	Novel and highly reliable leak check tests for drop- and external pressure-type cell-free and concentrated ascites reinfusion therapy	Ther Apher Dial. 2023 Dec;27(6):1040–1047. doi: 10.1111/1744-9987.14048. Epub 2023 Aug 18.	Original Article
147	Mitsuzawa K, Ishida T, Tanaka R, et al.	麻酔科蘇生科	Effects of anesthetics on nociceptive sensory evoked potentials by intraepidermal noxious electrical stimulation of A- δ fibers	J Anesth. 2023 Dec;37(6):841–852. doi: 10.1007/s00540-023-03243-y. Epub 2023 Aug 19.	Original Article
148	Yanagisawa K, Kameyama A, Miyama H, et al.	救急科	Intravascular Large B-Cell Lymphoma in Acute Hypoxic Respiratory Failure	Case Rep Crit Care. 2023 Aug 12;2023:9192396. doi: 10.1155/2023/9192396. eCollection 2023.	Case Reports
149	Hanaoka Y, Abe D, Koyama JI, et al.	脳神経外科	A new very-small-bore Simmons guiding sheath for transradial neurointervention: Technical note and initial experience	J Neuroradiol. 2024 Mar;51(2):214–219. doi: 10.1016/j.neurad.2023.08.004. Epub 2023 Aug 23.	Original Article
150	Kamijo T, Horiuchi K, Negishi T, et al.	臨床検査部	First Detection of Chimeric β -Lactamase CTX-M-64-Producing Salmonella Typhimurium from a Domestic Source in Japan	Jpn J Infect Dis. 2024 Jan 24;77(1):47–50. doi: 10.7883/yoken.JJID.2023.163. Epub 2023 Aug 31.	Case Reports
151	Wakabayashi SI, Joshita S, Kimura K, et al.	内科学第二	Symptom-based portopulmonary hypertension screening questionnaire in Japanese patients with chronic liver disease	JGH Open. 2023 Jul 25;7(8):527–536. doi: 10.1002/jgh3.12939. eCollection 2023 Aug.	Original Article
152	Ichikawa T, Kishida D, Shimojima Y, et al.	脳神経内科／リウマチ・膠原病内科	Impact of online health information-seeking behavior on shared decision-making in patients with systemic lupus erythematosus: The TRUMP(2)-SLE project	Lupus. 2023 Oct;32(11):1258–1266. doi: 10.1177/09612033231200104. Epub 2023 Aug 31.	Original Article
153	Ichikawa T, Furukawa R, Shimojima Y, et al.	脳神経内科／リウマチ・膠原病内科	Immune-mediated necrotizing myopathy with concomitant development of Kikuchi-Fujimoto disease	Int J Rheum Dis. 2024 Jan;27(1):e14894. doi: 10.1111/1756-185X.14894. Epub 2023 Aug 31.	Case Reports

154	Hanaoka Y, Koyama JI, Nakamura T, et al.	脳神経外科	Letter: Transradial Carotid Artery Stenting Using Walrus Balloon Guide Catheter: Technical Aspects and Clinical Outcome	Oper Neurosurg (Hagerstown). 2023 Nov 1;25(5):e296–e297. doi: 10.1227/ons.0000000000000895. Epub 2023 Sep 1.	Original Article
155	Kobayashi T, Nishino Y, Takiguchi T, et al.	血液・腫瘍内科学	Epidemiological and therapeutic profiles of lung cancer patients in the Hokushin Region Japan: a retrospective hospital administrative database study	BMC Pulm Med. 2023 Sep 1;23(1):322. doi: 10.1186/s12890-023-02610-5.	Original Article
156	Yamamoto T, Tsukube T, Wada Y, et al.	心臓血管外科	Mechanism of sac expansion without evident endoleak analyzed with X ray phase-contrast tomography	JVS Vasc Sci. 2023 Jul 24;4:100123. doi: 10.1016/j.jvssci.2023.100123. eCollection 2023.	Original Article
157	Kobayashi S, Harada M, Yamada A, et al.	腎臓内科	A Case of an Elderly Woman Who Developed Corneal Perforation in the Clinical Course of Myeloperoxidase Positive Antineutrophil Cytoplasmic Antibody-Associated Vasculitis	Case Rep Rheumatol. 2023 Aug 26;2023:4246075. doi: 10.1155/2023/4246075. eCollection 2023.	Case Reports
158	Mita A, Ohno Y, Masuda Y, et al.	消化器・移植・小児外科学分野	Antibody titer after administration of mRNA-based vaccine against severe acute respiratory syndrome coronavirus 2 in liver transplant recipients	Ann Gastroenterol Surg. 2023 Apr 19;7(5):800–807. doi: 10.1002/ags3.12677. eCollection 2023 Sep.	Original Article
159	Sunohara D, Miura T, Nomoto F, et al.	循環器内科	Effectiveness of endovascular therapy using stents in a patient with celiac artery compression syndrome due to the median arcuate ligament: A case report	J Cardiol Cases. 2023 Jun 1;28(3):128–131. doi: 10.1016/j.jccase.2023.05.005. eCollection 2023 Sep.	Case Reports
160	Ishida F.	保健学科	[Large granular lymphocytic leukemia and its association with immune dysregulation]	Rinsho Ketsueki. 2023;64(8):791–798. doi: 10.11406/rinketsu.64.791.	Original Article
161	Kawakami S, Yamamoto H, Komatsu M, et al.	放射線科	Update on respiratory lesions in patients with IgG4-related autoimmune pancreatitis	Medicine (Baltimore). 2023 Sep 8;102(36):e35089. doi: 10.1097/MD.00000000000035089.	Original Article
162	Iwaya Y, Okamura T, Nagaya T.	内科学第二	Pinstripe Pattern of Esophageal Achalasia Demonstrated With Texture and Color Enhancement Imaging	Clin Gastroenterol Hepatol. 2024 Feb;22(2):A27. doi: 10.1016/j.cgh.2023.08.025. Epub 2023 Sep 7.	Original Article
163	Ikeda J, Shimojima Y, Yamada A, et al.	脳神経内科／リウマチ・膠原病内科	Quantitative evaluation of the thickened dura mater impacting clinical signs in immune-mediated hypertrophic pachymeningitis	J Neurol Sci. 2023 Oct 15;453:120780. doi: 10.1016/j.jnns.2023.120780. Epub 2023 Sep 1.	Original Article
164	Umemura K, Mita A, Ohno Y, et al.	消化器・移植・小児外科学分野	Long-term Catch-up Growth and Risk Factors for Short Adult Height After Pediatric Liver Transplantation: A Retrospective Study	Transplantation. 2024 Mar 1;108(3):732–741. doi: 10.1097/TP.00000000000004795. Epub 2024 Feb 20.	Original Article
165	Hanaoka Y, Koyama JI, Nakamura T, et al.	脳神経外科	Smaller diameter sheaths are required to safely perform transradial neurointerventions	Interv Neuroradiol. 2023 Sep 11:15910199231201517. doi: 10.1177/15910199231201517. Online ahead of print.	Letter

166	Miyagawa Y, Kitazawa M, Tokumaru S, et al.	消化器・移植・小児外科学分野	Impact of Oophorectomy on Survival and Improving Nutritional Status in Ovarian Metastasis from Colorectal Adenocarcinoma	Oncology. 2024;102(2):114-121. doi: 10.1159/000533599. Epub 2023 Sep 12.	Original Article
167	Masuo H, Kubota K, Shimizu A, et al.	消化器・移植・小児外科学分野	Increased mitochondria are responsible for the acquisition of gemcitabine resistance in pancreatic cancer cell lines	Cancer Sci. 2023 Nov;114(11):4388-4400. doi: 10.1111/cas.15962. Epub 2023 Sep 12.	Original Article
168	Hanaoka M, Wada Y, Goto N, et al.	呼吸器・感染症・アレルギー内科	Referential equations for pulmonary diffusing capacity generated from the Japanese population using the Lambda, Mu, or Sigma method and their comparisons with prior referential equations	Respir Investig. 2023 Nov;61(6):687-697. doi: 10.1016/j.resinv.2023.07.009. Epub 2023 Sep 15.	Original Article
169	Amitani M, Oba T, Kiyosawa N, et al.	乳腺・内分泌外科	Development of a predictive score for post-hemithyroidectomy hypothyroidism using skeletal muscle index, remnant thyroid index, and thyroid-stimulating hormone levels: a retrospective cohort study	Quant Imaging Med Surg. 2023 Sep 1;13(9):5525-5535. doi: 10.21037/qims-23-53. Epub 2023 Jul 7.	Original Article
170	Yamaguchi T, Yamada K, Nagai S, et al.	遺伝子医療研究センター	Clinical and molecular delineation of classical-like Ehlers-Danlos syndrome through a comprehensive next-generation sequencing-based screening system	Front Genet. 2023 Aug 30;14:1234804. doi: 10.3389/fgene.2023.1234804. eCollection 2023.	Original Article
171	Kitahara J, Yoshinaga T, Kakiyama S, et al.	眼科	Ocular findings in patients with acquired ATTRv amyloidosis following domino liver transplantation	PLoS One. 2023 Sep 15;18(9):e0291716. doi: 10.1371/journal.pone.0291716. eCollection 2023.	Original Article
172	Shimane T, Koike K, Fujita S, et al.	特殊歯科・口腔外科	Positive impact of perioperative oral management on the risk of surgical site infections after abdominal surgery: Sixteen universities in Japan	Medicine (Baltimore). 2023 Sep 15;102(37):e35066. doi: 10.1097/MD.00000000000035066.	Original Article
173	Shimizu T, Oba T, Oshimura M, et al.	乳腺・内分泌外科	Eribulin promotes proliferation of CD8(+) T cells and potentiates T cell-mediated anti-tumor activity against triple-negative breast cancer cells	Breast Cancer Res Treat. 2024 Jan;203(1):57-71. doi: 10.1007/s10549-023-07111-x. Epub 2023 Sep 21.	Original Article
174	Motoki H, Inobe Y, Fukui T, et al.	循環器内科	Efficacy and Safety of Esaxerenone in Hypertensive Patients with Diabetes Mellitus Undergoing Treatment with Sodium-Glucose Cotransporter 2 Inhibitors (EAGLE-DH)	Adv Ther. 2023 Nov;40(11):5055-5075. doi: 10.1007/s12325-023-02633-8. Epub 2023 Sep 21.	Original Article
175	Komatsu Y, Takazawa A, Kito M, et al.	整形外科	Two-Stage Reconstruction of Extensor Tendons After Wide Resection of Clear Cell Sarcoma at the Anterior Ankle: A Case Report	JBJS Case Connect. 2023 Sep 21;13(3). doi: 10.2106/JBJS.CC.22.00776. eCollection 2023 Jul 1.	Case Reports
176	Yoshimura H, Watanabe K, Nishio SY, et al.	耳鼻咽喉科頭頸部外科	Determining optimal cochlear implant electrode array with OTOPLAN	Acta Otolaryngol. 2023 Sep;143(9):748-752. doi: 10.1080/00016489.2023.2256790. Epub 2023 Nov 8.	Original Article

177	Arai Y, Sasayama D, Kuraishi A, et al.	精神科	Sodium Valproate Use in Japanese Patients with Schizophrenia and Coronavirus Disease Is Associated with an Increased Risk of Pneumonia	J Clin Med. 2023 Sep 13;12(18):5953. doi: 10.3390/jcm12185953.	Original Article
178	Kataoka M, Kitazawa M, Nakamura S, et al.	消化器・移植・小児外科学分野	Cetuximab Enhances the Efficacy of MRTX1133, a Novel KRAS(G12D) Inhibitor, in Colorectal Cancer Treatment	Anticancer Res. 2023 Oct;43(10):4341-4348. doi: 10.21873/anticancerres.16629.	Original Article
179	Kitagawa T, Nakamura M, Fukumoto Y.	保健学科	Usefulness of muscle echo intensity for evaluating functional performance in the older population: A scoping review	Exp Gerontol. 2023 Oct 15;182:112301. doi: 10.1016/j.exger.2023.112301. Epub 2023 Sep 29.	Original Article
180	Nakazawa Y.	小児科	[Immune cell therapy for acute myeloid leukemia]	Rinsho Ketsueki. 2023;64(9):942-948. doi: 10.11406/rinketsu.64.942.	Review
181	Hayashi H, Shimizu A, Kubota K, et al.	消化器・移植・小児外科学分野	Impact of sarcopenic obesity on post-hepatectomy bile leakage for hepatocellular carcinoma	PLoS One. 2023 Oct 5;18(10):e0286353. doi: 10.1371/journal.pone.0286353. eCollection 2023.	Original Article
182	Yanagisawa R, Yamanaka M, Kawakami F, et al.	輸血部	Sub-pollen in platelet products: A potential cause of allergic transfusion reactions	Allergol Int. 2024 Jan;73(1):184-186. doi: 10.1016/j.alit.2023.09.006. Epub 2023 Oct 5.	Letter
183	Chinsuwan T, Hirabayashi K, Mishima S, et al.	小児科	Ligand-based, piggyBac-engineered CAR-T cells targeting EGFR are safe and effective against non-small cell lung cancers	Mol Ther Oncolytics. 2023 Sep 16;31:100728. doi: 10.1016/j.omto.2023.100728. eCollection 2023 Dec 19.	Original Article
184	Imamura H, Kashima Y, Hamano Y, et al.	救急科	Transient Intussusception Mimicking Acute Coronary Syndrome	Case Rep Gastrointest Med. 2023 Oct 9;2023:7324188. doi: 10.1155/2023/7324188. eCollection 2023.	Case Reports
185	Araki T, Kanda S, Ide T, et al.	呼吸器・感染症・アレルギー内科	Antiplatelet drugs may increase the risk for checkpoint inhibitor-related pneumonitis in advanced cancer patients	ESMO Open. 2023 Dec;8(6):102030. doi: 10.1016/j.esmoop.2023.102030. Epub 2023 Oct 16.	Original Article
186	Abe D, Kanaya K, Kiuchi T, et al.	脳神経外科	The Importance of Intratumoral Venous Drainage Preservation in Two-Stage Surgery of Large Hypervascular Choroid Plexus Papilloma: A Case Report	Cureus. 2023 Sep 22;15(9):e45796. doi: 10.7759/cureus.45796. eCollection 2023 Sep.	Case Reports
187	Fukuyama T, Yabe M, Nishioka M, et al.	小児科	Characteristics of an advanced epilepsy treatment gap in a region in Japan	Epilepsy Behav Rep. 2023 Oct 16;24:100628. doi: 10.1016/j.ebr.2023.100628. eCollection 2023.	Original Article
188	Sonehara K, Nozawa S, Suzuki Y, et al.	呼吸器・感染症・アレルギー内科	Pulmonary Spindle Cell Carcinoma Presenting Anaplastic Lymphoma Kinase Rearrangement	Case Rep Oncol. 2023 Sep 19;16(1):939-945. doi: 10.1159/000532101. eCollection 2023 Jan-Dec.	Case Reports
189	Hayashi H, Shimizu A, Kubota K, et al.	消化器・移植・小児外科学分野	Utilization of muscle area in an accurate prediction formula for renal function for patients with hepatocellular carcinoma	Asian J Surg. 2024 Feb;47(2):893-898. doi: 10.1016/j.asjsur.2023.10.042. Epub 2023 Nov 2.	Original Article

190	Hanafusa H, Nakamura K, Kamijo Y, et al.	遺伝子医療研究センター	Lysinuric protein intolerance exhibiting renal tubular acidosis/Fanconi syndrome in a Japanese woman	JIMD Rep. 2023 Sep 7;64(6):410–416. doi: 10.1002/jmd2.12392. eCollection 2023 Nov.	Case Reports
191	Yanagisawa R, Fujiwara SI, Sato T.	輸血部	Further Considerations Regarding Molecular Screening and Treatment of Bacterial Vaginosis	JAMA Pediatr. 2024 Jan 1;178(1):93. doi: 10.1001/jamapediatrics.2023.4729.	Original Article
192	Komatsu T, Minamisawa M, Okada A, et al.	循環器内科	Real-world Practical Experience of Angiotensin Receptor–neprilysin Inhibitor in Older Japanese Patients with Chronic Heart Failure	JMA J. 2023 Oct 16;6(4):489–498. doi: 10.31662/jmaj.2023–0109. Epub 2023 Sep 27.	Original Article
193	Tajiri M, Takasone K, Kodaira M, et al.	脳神経内科／リウマチ・膠原病内科	Autoimmune Glial Fibrillary Acidic Protein Astrocytopathy Following SARS–CoV–2 Infection	Intern Med. 2024 Jan 15;63(2):337–339. doi: 10.2169/internalmedicine.2751–23. Epub 2023 Nov 13.	Case Reports
194	Arai Y, Sasayama D, Suzuki K, et al.	精神科	Association between Children’s Difficulties, Parent–Child Sleep, Parental Control, and Children’s Screen Time: A Cross–Sectional Study in Japan	Pediatr Rep. 2023 Nov 8;15(4):668–678. doi: 10.3390/pediatric15040060.	Original Article
195	Kanaya K, Ichinohe F, Kitamura S, et al.	脳神経外科	Contrast–enhanced CT rim sign may predict vestibular schwannoma adhesion and postoperative complications	Clin Radiol. 2024 Feb;79(2):e287–e294. doi: 10.1016/j.crad.2023.10.024. Epub 2023 Nov 10.	Original Article
196	Okumura T, Kimura T, Iwadare T, et al.	内科学第二	Prognostic Significance of C–Reactive Protein in Lenvatinib–Treated Unresectable Hepatocellular Carcinoma: A Multi–Institutional Study	Cancers (Basel). 2023 Nov 9;15(22):5343. doi: 10.3390/cancers15225343.	Original Article
197	Hamanaka K, Miura K, Eguchi T, et al.	呼吸器外科	Harnessing 3D–CT Simulation and Planning for Enhanced Precision Surgery: A Review of Applications and Advancements in Lung Cancer Treatment	Cancers (Basel). 2023 Nov 14;15(22):5400. doi: 10.3390/cancers15225400.	Original Article
198	Komatsu T, Okada A, Kuwahara K.	循環器内科	Two different right ventricular pacing waveforms	Eur Heart J Case Rep. 2024 Mar 4;8(3):ytae119. doi: 10.1093/ehjcr/ytae119. eCollection 2024 Mar.	Case Reports
199	Akahane S, Matsuura H, Kaido T, et al.	臨床検査部	Apolipoprotein E–containing lipoproteins and their extracellular interactions with LRP1 affect LPS–induced inflammation	Biol Chem. 2024 Mar 18. doi: 10.1515/hsz–2024–0018. Online ahead of print.	Original Article
200	Okamura T, Iwaya Y, Nagaya T, et al.	内科学第二	Diagnosis by combination of endoscopic findings helps differentiate non–Helicobacter pylori Helicobacter–infected gastritis from Helicobacter pylori–infected gastritis	Helicobacter. 2024 Mar–Apr;29(2):e13070. doi: 10.1111/hel.13070.	Original Article
201	Niimi T, Inaba Y, Honda H.	子どものこころの発達医学	Developmental changes in prefrontal cortex activation in children with or without autism spectrum traits on near–infrared spectroscopy	Brain Dev. 2024 Mar 30;S0387–7604(24)00056–1. doi: 10.1016/j.braindev.2024.03.006. Online ahead of print.	Original Article

202	Watanabe H, Hirai K, Nakazawa Y, et al.	薬剤部	Effect of Enoxaparin and Daikenchuto Coadministration on Hepatic Disorder Markers in Gynecological Cancer Patients after Abdominal Surgery	Biol Pharm Bull. 2024;47(4):758–763. doi: 10.1248/bpb.b24-00026.	Original Article
203	Moritani Y, Shibazaki T, Kobori H, et al.	小児科	Severely obese 14-year-old boy with central sleep apnea several years after head trauma	Clin Pediatr Endocrinol. 2024;33(2):82–86. doi: 10.1297/cpe.2023-0053. Epub 2024 Feb 23.	Case Reports
204	Furihata K, Miyati T, Ohno N, et al.	放射線科	Immediate effect of upright position on lumbar disc using multiposture MRI: Preliminary results	J Clin Imaging Sci. 2024 Apr 18;14:12. doi: 10.25259/JCIS_11_2024. eCollection 2024.	Original Article
205	Liu J, Fukuda H, Kondo E, et al.	特殊歯科・口腔外科	Screening of aspiration pneumonia using the modified Mallampati classification tool in older adults	PLoS One. 2024 May 10;19(5):e0302384. doi: 10.1371/journal.pone.0302384. eCollection 2024.	Original Article
206	Kosho T, Hayashi S, Matsumoto KI, et al.	遺伝子医療研究センター	Editorial: Ehlers–Danlos syndrome: from bedside to bench	Front Genet. 2024 Apr 26;15:1399386. doi: 10.3389/fgene.2024.1399386. eCollection 2024.	Others

計206件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること

(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367–9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ①「臨床研究に関する標準業務手順書」・・・ 「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」 に基づいて、国立大学法人信州大学医学部・附属病院における研究者が主導して行う 人を対象とする医学系研究の実施に必要な手続きと運営に関する手順を定めている。 ②「倫理審査申請の手順」・・・倫理審査申請から承認、研究の実施までの流れを定めている。 ③「他の研究機関からの審査依頼に関する標準業務手順書」・・・他の研究機関の長から人を対 象とする医学系研究の審議を依頼された場合の手順を定めている。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 国立大学法人信州大学臨床研究に係る利益相反マネジメント規程による	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年数回(適宜)

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年数回(適宜)
・ 研修の主な内容 eAPRINのe-learning受講による教育研修	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

<p>後期研修 内科学（1）（呼吸器・感染症・アレルギー内科）大学院・専門医コース，呼吸器専門医・感染症専門医・アレルギー専門医コース，内科（4）（糖尿病・内分泌代謝内科）大学院・研究コース，臨床コース，一般循環器内科コース，循環器内科サブスペシャリティ取得コース，大学院・研究コース，一般皮膚科コース，大学院・研究コース，皮膚科サブスペシャリティ取得コース，一般産婦人科医学コース，研究コース，産婦人科サブスペシャリティ取得コース，麻酔科専門医コース その1（卒後臨床研修2年終了後，大学院・学位取得），麻酔科専門医コース その2（卒後臨床研修2年終了後，大学院・関連病院間連携），形成外科専門医コース，特殊歯科・口腔外科アドバンストコース</p> <p>専攻医研修（基本領域） 内科専門研修プログラム，精神科専門研修プログラム，小児科専門研修プログラム，皮膚科専門研修プログラム，放射線科専門研修プログラム，外科専門研修プログラム，整形外科専門研修プログラム，脳神経外科専門研修プログラム，泌尿器科専門研修プログラム，眼科専門研修プログラム，耳鼻咽喉科頭頸部外科専門研修プログラム，産婦人科専門研修プログラム，麻酔科専門研修プログラム，形成外科専門研修プログラム，救急科専門研修プログラム，リハビリテーション科専門研修プログラム，臨床検査専門研修プログラム，病理専門研修プログラム</p>
--

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	153人
-------------	------

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
花岡 正幸	呼吸器・感染症・アレルギー内科	診療科長	35年	
梅村 武司	消化器内科	診療科長	30年	
上條 祐司	腎臓内科	専門診療科長	30年	
中澤 英之	血液内科	専門診療科長	28年	
関島 良樹	脳神経内科	診療科長	33年	
下島 恭弘	リウマチ・膠原病内科	専門診療科長	25年	
駒津 光久	糖尿病・内分泌代謝内科	診療科長	38年	
桑原 宏一郎	循環器内科	診療科長	33年	
鷺塚 伸介	精神科	診療科長	30年	
中沢 洋三	小児科	診療科長	28年	
奥山 隆平	皮膚科	診療科長	35年	
藤永 康成	放射線科	診療科長	31年	
副島 雄二	消化器外科 移植外科 小児外科	診療科長	33年	
瀬戸 達一郎	心臓血管外科	診療科長	29年	

伊藤 研一	乳腺・内分泌外科	診療科長	36年	
清水 公裕	呼吸器外科	診療科長	31年	
高橋 淳	整形外科	診療科長	32年	
堀内 哲吉	脳神経外科	診療科長	33年	
栗田 浩	特殊歯科・口腔外科	診療科長	37年	
小川 輝之	泌尿器科	副診療科長	25年	
村田 敏規	眼科	診療科長	38年	
工 穰	耳鼻咽喉科頭頸部外科	診療科長	30年	
塩沢 丹里	産科婦人科	診療科長	38年	
川真田 樹人	麻酔科蘇生科	診療科長	38年	
杠 俊介	形成外科	診療科長	35年	
今村 浩	救急科	診療科長	37年	
堀内 博志	リハビリテーション科	職付・特定雇用診療科長	32年	
上原 剛	病理診断科	職付・診療教授	27年	
上原 剛	臨床検査部	施設部長・職付・診療教授	27年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

<p>① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）</p>
<p>○新人看護師、看護師ラダーに基づく研修、役割遂行に関する研修</p> <ul style="list-style-type: none">・研修の期間・実施回数 令和5年4月～令和6年3月、94回・研修の参加人数 延べ1,536名 <p>○ヨード造影剤の研修</p> <ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容 ヨード造影剤の効果、副作用、投与に対する注意事項について・研修の期間 令和6年3月14日（木）～3月29日（金）（SafetyPlus Web講習）・研修回数 年1回実施・研修の参加人数 222人 <p>○放射線障害予防研修</p> <ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容 種類、線量測定、人体への影響、職業被ばくの線量限度等の研修・研修の期間 令和6年4月22日（月）～5月17日（金）（業務端末視聴）・研修回数 年1回実施・研修の参加人数 743人 <p>○医療放射線安全利用の研修</p> <ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容 医療被ばくの基本、放射線の正当化、防護の最適化等の研修・研修の期間 令和6年6月4日（火）～7月1日（金）（業務端末視聴）・実施回数 年1回実施・研修の参加人数 938人 <p>○MRI安全講習</p> <ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容 磁場と電波の影響、吸着事故や火傷の防止、造影剤の副作用等の研修・研修の期間 令和6年6月4日（火）～7月1日（金）（業務端末視聴）・実施回数 年1回実施・研修の参加人数 1,084人 <p>○人工心肺装置及び補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、閉鎖式保育器の安全使用のための研修</p> <ul style="list-style-type: none">・研修の期間・実施回数：人工心肺及び補助循環装置：12回、人工呼吸器：2回、血液浄化装置：3回、除細動器：2回、閉鎖式保育器：2回・研修の参加人数：人工心肺及び補助循環装置：170人、人工呼吸器：23人、血液浄化装置：50人、除細動器：24人、閉鎖式保育器：32人
<p>② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）</p>
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容①看護職の管理者（師長）：看護管理を語る会 小グループによる実践発表会（20分/人）②看護職の管理者（副看護師長）：PDPを使った問題解決③看護職の管理者（副看護師長）：組織分析・研修の期間・実施回数①12月～2月 全13回

②6月～11月 全3回 ③6月～11月 全4回 ・研修の参加人数 ①延べ78名 ②延べ23名 ③延べ30名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 新人看護師フィジカルアセスメント ・研修の期間・実施回数 7月・1回 ・研修の参加人数 12名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 花岡 正幸
管理担当者氏名	副病院長（事務担当） 酒井 修 総務課長 古澤 真紀 経営管理課長 紙谷 康弘 経営推進課長 宮尾 勇人 医事課長 寺沢 隆 医療支援課長 渡邊 拓矢

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	診療録管理室
		処方せん	
		手術記録	
		看護記録	
		検査所見記録	
		エックス線写真	
		紹介状 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	経営管理課
		高度の医療の研修の実績	医学部
		閲覧実績	総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
	掲げる事項 規則第一条の十一第一項に	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室

電子化されている諸記録は、電子カルテシステムおよび部門システム内で管理している。紙媒体の諸記録は、診療録管理室が管理する記録保管庫で管理している。また診療録の本院外への持ち出しについては、「信州大学医学部附属病院診療録閲覧・貸出要項」により禁止している。

（高度の医療技術の開発及び評価の実績）
電子化されている諸記録は、事務部サーバー内で管理している。紙媒体の諸記録は、事務部の保管庫で管理している。

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御室	電子化されている記録は感染制御室及び医事課医療安全係のシステム内で管理している。かつ紙媒体でも学内ルールにより5年間保存している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	経営管理課	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	経営管理課			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	経営管理課			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療支援課
		医療安全管理部門の設置状況	医事課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	総務課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	総務課
		監査委員会の設置状況	医事課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	大学法人本部
		職員研修の実施状況	総務課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	総務課
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
閲覧責任者氏名	病院長 花岡 正幸
閲覧担当者氏名	副病院長(事務担当) 酒井 修 総務課長 古澤 真紀 経営管理課長 紙谷 康弘 経営推進課長 宮尾 勇人 医事課長 寺沢 隆 医療支援課長 渡邊 拓矢
閲覧の求めに応じる場所	・総務課
閲覧の手続の概要 閲覧希望者より申請があった際には、総務課にて記録を閲覧させている。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延 0 件	
閲覧者別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有																												
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 医療安全管理に関する基本的な考え方 医療安全管理のための組織に関する基本方針 医療安全管理のための職員に対する研修に関する基本方針 医療安全管理の確保を目的とした改善のための方策に関する基本事項 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本事項（患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む） 患者からの相談への対応に関する基本方針 その他医療安全の推進のために必要な基本方針 																													
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況																													
<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無（有） ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 医療安全管理委員会の内規に基づき、本院で発生した医療事故の原因究明のための調査・分析。分液結果を活用した改善方策の立案・実施・周知おける事項の審議を行う。方策の実施状況についての調査、見直しとして、委員会構成員による関係部署の巡回等を行う。その他、重要な検討内容、患者への対応状況を含めて管理者への報告を行う。 																													
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年107回																												
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">部署医療安全管理者研修</td> <td style="text-align: right;">1回</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">医療情報管理研修</td> <td style="text-align: right;">5回</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">安全A</td> <td style="text-align: right;">21回</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">安全B（安全Bから研修の完全オンライン化、視聴期間を計3回実施）</td> <td style="text-align: right;">3回</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">医療従事者向け一時救命処置（BLS）研修</td> <td style="text-align: right;">3回</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">非医療従事者向け一時救命処置（BLS）研修</td> <td style="text-align: right;">3回</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">シミュレーション研修 部署での実践</td> <td style="text-align: right;">11回</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">医療安全推進記念講演「医療安全の国際潮流について」</td> <td style="text-align: right;">1回</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">事例検討会（M&Mカンファレンス、RCA分析等）</td> <td style="text-align: right;">13回</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">新規採用者医療安全職員研修</td> <td style="text-align: right;">1回</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">中途採用者医療安全職員研修</td> <td style="text-align: right;">23回</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">超音波ガイド下中心静脈穿刺研修</td> <td style="text-align: right;">1回</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">医療安全研修@TERUMO Medical Pranex</td> <td style="text-align: right;">1回</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">新入職者対象 医療安全研修</td> <td style="text-align: right;">1回</td> </tr> </table> 		部署医療安全管理者研修	1回	医療情報管理研修	5回	安全A	21回	安全B（安全Bから研修の完全オンライン化、視聴期間を計3回実施）	3回	医療従事者向け一時救命処置（BLS）研修	3回	非医療従事者向け一時救命処置（BLS）研修	3回	シミュレーション研修 部署での実践	11回	医療安全推進記念講演「医療安全の国際潮流について」	1回	事例検討会（M&Mカンファレンス、RCA分析等）	13回	新規採用者医療安全職員研修	1回	中途採用者医療安全職員研修	23回	超音波ガイド下中心静脈穿刺研修	1回	医療安全研修@TERUMO Medical Pranex	1回	新入職者対象 医療安全研修	1回
部署医療安全管理者研修	1回																												
医療情報管理研修	5回																												
安全A	21回																												
安全B（安全Bから研修の完全オンライン化、視聴期間を計3回実施）	3回																												
医療従事者向け一時救命処置（BLS）研修	3回																												
非医療従事者向け一時救命処置（BLS）研修	3回																												
シミュレーション研修 部署での実践	11回																												
医療安全推進記念講演「医療安全の国際潮流について」	1回																												
事例検討会（M&Mカンファレンス、RCA分析等）	13回																												
新規採用者医療安全職員研修	1回																												
中途採用者医療安全職員研修	23回																												
超音波ガイド下中心静脈穿刺研修	1回																												
医療安全研修@TERUMO Medical Pranex	1回																												
新入職者対象 医療安全研修	1回																												

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備（有）
既定の名称「医療安全管理マニュアル」
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - インシデントの発見者または当事者が入力した業務端末内のインシデント報告システムにより、医療安全管理室でインシデントの発生を把握する。部署医療安全管理者にも報告内容が自動的にメールにて通知される。
 - 影響レベル3b以上の事例については医療安全管理者のPHSあるいは公用携帯電話に直接連絡が入る。また、発見通知入力により医療安全管理室会議構成員に自動的にメールが送信される。インシデントレポート提出と報告については、1日1回まとめて医療安全管理室から医療安全管理室会議構成員にメール配信を行い、全員が確認している。
 - 毎週木曜日に医療安全管理室ミーティングを開催し、前週1週間分のインシデントレポート内容について検討している。
 - 事例の問題分析については、各部署で事例ごとに再発防止策を検討する。複数の職種や部署が関与する事例、繰り返し発生する事例については、医療安全管理室の指導の下、各部署とともに事例分析を行う。
 - 事例の改善策については、医療安全管理室ミーティングで毎週1回検討を行っている。
 - また、医薬品安全管理室及び医療安全管理室の連絡会議を月に1回開催している。前述の会議、その他の会議により、各部署及び医療安全管理室などで立案し、医療安全管理委員会で審議し改善策を決定している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 医療関連感染対策に関する基本的な考え方 ● 感染対策委員会の設置 ● 医療関連感染対策に関する職員研修 ● 医療関連感染発生時の対応 ● 医療関連感染対策ガイドライン ● 患者等に対する当該指針の閲覧及び情報提供と説明に関する基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 抗菌薬使用動向報告 ● JANIS検査部門還元情報報告/感染症レポート ● 医療関連感染に関する啓発及び職員研修の企画、実施 ● 医療関連感染ガイドライン等の策定・改訂についての審議（エムボックス、<i>C. difficile</i>、インフルエンザ） ● アウトブレイク事象についての対応、報告 ● 職業感染対策（血液・体液曝露、結核接触者健診、ワクチン接種プログラム 等）についての実施及び報告 ● 医療関連感染サーベイランス（デバイス関連、耐性菌、プロセス 等）についての実施及び報告 ● 院内ラウンドの実施及び報告、改善活動報告、コンサルテーション対応 ● 感染防止対策地域連携加算に基づく相互チェックの実施及び報告 ● 新型コロナウイルス感染症の対応 ● その他感染管理に関する事項の検討、審議、決定（病院フォーミュラー、AST許可薬、職員対象のB型肝炎抗体価検査の実施 等） 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年101回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>【全職員対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 感染対策講演会「非”専門家”のためのHIV感染症との関わり方」：1回 ● 感染対策①コロナの集団感染から・環境整備：6回 ● 感染対策②AMR対策・血液培養・<i>C. difficile</i>感染症：5回 ● 感染対策③病院機能評価に備えて：全職員、委託業者：24回 ● 感染対策④冬の感染症対策～COVID-19とインフルエンザ～：24回 <p>【新採用者・中途対象者対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新採用者対象 院内感染対策オリエンテーション：1回 ● 中途採用者対象 院内感染対策オリエンテーション：20回 ● 新採用看護師対象 手指衛生技術研修：3回 ● 新採用研修医対象 PPE着脱・N95マスクフィットテスト（2回） <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 研修医対象 研修医クルズス（4回） ● 感染リンクナース対象 感染管理実践コース ベーシック・アドバンス（6回） ● 看護補助者対象 より良い環境を考える（3回） ● 委託業者対象 院内で実践してほしい感染対策～清掃業務を担当する方へ（2回） 	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - アウトブレイク対応（部署への介入）：南5階病棟MRSAアウトブレイク対応
 - 結核の接触者健診（2事例）
 - 病棟改修工事に関する感染対策の助言・提言
 - 新型コロナウイルス感染症対策本部の活動（ルールや対策等の発信、クラスター対応）

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための
体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 1) 医療用麻薬・向精神薬・覚醒剤原料の管理・取扱いに関するWeb講習会 2023/10/2～2023/12/31, 参加者 484名 2) 医薬品安全使用のためのWeb講習会 2023/12/6～2024/3/31, 参加者 696名 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> I. 医薬品の採用：薬事委員会の開催に基づく医薬品の採用 II. 医薬品管理：手順に基づいた医薬品の購入および適正管理の実施、各部署での医薬品管理等 III. 患者に対する医薬品使用：調剤、交付、過誤防止 IV. 薬剤管理指導・病棟薬剤業務・周術期薬剤管理業務：適切な薬剤管理指導業務および病棟薬剤業務の実施、持参薬管理、周術期薬剤管理業務に関するプロトコル等 V. 医薬品情報の収集・提供等：医薬品情報の収集、解析、評価、副作用報告、医薬品情報管理室と病棟薬剤師との連携、医薬品情報管理室と医療安全管理室との連携 VI. 院内製剤：クラス分類等 VII. 保険薬局との連携：疑義照会への対応等 <p>上記内容の手順書に対し、薬剤部での業務においては、適切に行われているかを常時確認している。また、薬剤部以外の部署での業務においては、定期的に「医薬品安全使用のための業務点検」を行い、適切に行われていることを確認している。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)： <ul style="list-style-type: none"> 「人工血管置換術におけるRifadin注射液の使用」 「薬剤徐放型電極を用いた人工内耳植え込み術」 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 「医薬品安全管理のための業務手順書」の、年に1回の改訂と院内への周知徹底 「医薬品安全管理のための業務手順書」は、医療安全管理委員会にて審議され、承認された後、院内各所に配布し、周知している。 2) 医薬品の安全使用のための情報提供方法の工夫 院内オールメール、電子カルテ初期画面への掲示、院内向け薬剤部ホームページへの掲示等により全職員へ通知している。添付文書内容は、添付文書データベースを月に1回更新し、最新の情報を診療端末にて閲覧可能としている。 3) 院内での医薬品副作用報告体制の整備 電子カルテシステムからの副作用報告を可能としている。提出された副作用報告は、薬事委員会および医療安全管理委員会にて報告を行っている。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための
体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年48回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 新入職員医療機器研修 中途採用者・復帰者に対する医療機器研修 特定機能病院に係る医療機器（人工呼吸器、人工心肺及び補助装置、血液浄化装置、 除細動器、閉鎖式保育器、放射線治療装置、CTエックス線装置、MRI装置）の研修 その他必要な機器の研修 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 （ 有 ） ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 年1回を基本とした定期点検 消耗品・定期部品交換、動作確認、漏れ電流等 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ 有 ） ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：特段なし ・ その他の改善のための方策の主な内容： 定期的な医療安全管理室とのミーティング 部署リスクマネージャー会議での連絡・報告 臨床工学部Hpへのマニュアル掲載、広報誌等の発行 納入業者へ納入医療機器の情報提供の依頼 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 責任者の資格（医師・歯科医師） ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 <p>医療安全管理責任者は副病院長（危機管理担当）が担っており、同時に医療安全管理部門の責任者及び医療安全管理委員長となり、医療の安全に関することを統括管理している。また、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者は、医療安全管理委員会の構成員となり医療安全に関する報告を行っている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（ 3名）
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 <ol style="list-style-type: none"> 1) 月に1回の頻度で行っている、医薬品情報管理室と医療安全管理室との連絡会議において、院内で発生した医薬品に関するインシデントや、院内外より入手した医薬品の安全性情報・適正使用情報について情報共有を行い、院内での対応策について協議し、適切な措置を講じている。検討した内容は、医療安全管理委員会で審議したのち、部署医療安全管理者会議で報告、周知している。 2) 薬事委員会、および医療安全委員会において、医薬品医療機器等安全性情報の周知や、副作用症例の報告を行っている。 3) 特に重要な添付文書改訂等については、隔月にて発行している「薬剤部 NEWS」において、院内職員に対し周知している。 4) 特に注意を要する事項について、年に1回の頻度で行っている「医薬品の安全使用のための研修会」において説明している。本研修では、理解度確認テストを行うことにより、受講者の理解を深めるようにしている。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 <ol style="list-style-type: none"> 1) 審査済みの未承認新規医薬品の使用時は、処方・注射オーダーリングからの入力とし、患者限定・医薬品採用願書または薬剤保管依頼書、倫理委員会審査結果通知書を医薬品情報管理室に提出する。また、医療安全管理室の専従薬剤師が、患者の使用状況について定期的に確認している。 2) 登録状況、使用状況については、薬剤部室長会議（月1回開催）で報告を受けており、医薬品安全管理責任者に確実に伝達される。 ・ 担当者の指名の有無（有） ・ 担当者の所属・職種： <ul style="list-style-type: none"> （所属：薬剤部・医薬品情報管理室， 職種 薬剤師 ） （所属：医療安全管理室， 職種 薬剤師 ） 	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （ 有 ） ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：診療録管理委員会での遵守状況の確認、指導及び医療安全管理委員会との情報共有 	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： ・ 主に手術記録、退院時要約、インフォームド・コンセントに関する記録、カウンターサイン実施状況等を日常的に確認し、記載に不備が認められた場合に担当医へ指導を実施。記載が不十分な事例については、診療録管理委員会を通じて、各部署に周知を依頼 ・ 新入職員入職時のオリエンテーションにおいて、診療録と診療報酬の関係に関する講義を担当 ・ 卒後臨床研修医入職時のオリエンテーションにおいて、退院時要約の作成に関する講義を担当 ・ 多職種による診療記録および退院時要約の質的監査を、それぞれ年2回実施。監査結果を診療録管理委員会へ報告するとともに主治医へのフィードバックを実施 	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員：専従（5）名、専任（0）名、兼任（9）名 うち医師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（6）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（0）名 うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（1）名 <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ インシデントレポート及び関係者からの事実確認に基づく医療事故等の判定 ・ 医療事故発生時における記録等の確認及び指導並びに患者家族への対応状況の確認及び指導 ・ 医療安全相談室からの医療事故の相談内容に関する事項 ・ 医療の安全管理を推進するための啓発活動に関する事 ・ 医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び改善策の提案に関する事 ・ 肺血栓塞栓症予防策の実施状況及び全死亡例のモニタリングに関する事 ・ インフォームド・コンセントの適切な実施に関する事 ・ その他医療の安全管理に係る連絡調整及び医療安全対策の推進に関する事 <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（26件）、及び許可件数（26件） ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有） ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有） ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> 高難度新規医療技術を用いた医療の提供に関する審査申請があった場合は、担当部門においてその提供の適否を審査する。当該医療技術実施後は、2週間後、および1年後に、申請診療科より使用報告書が提出されるため、その内容を確認する。 ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有） ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有） 	
⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（4件）、及び許可件数（4件） ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有） ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有） ・ 活動の主な内容： 	

診療科より未承認新規医薬品等の申請があった場合、未承認新規医薬品等担当部門において、使用の可否について協議を行う。その際、使用する未承認新規医薬品等について、既存の医薬品と比較した際の優位性、有害事象、患者への説明と同意の方法、使用できる医師の条件等について、未承認新規医薬品等評価委員会にも意見聴取しながら、使用の可否を決定する。使用より2週間後、および1年後に、申請診療科より使用報告書が提出されるため、その内容を確認する。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有)
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 277 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 157 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - ・ 医療安全管理部門に報告された事象の確認
 - ・ 適切に報告されているかの確認及び報告が不十分な場合の指導

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り (有 (病院名：山形大学医学部附属病院))
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ (有 (病院名：三重大学医学部附属病院))
- ・ 技術的助言の実施状況
山形大学医学部附属病院に対して、2024年10月22日(火)に実施予定。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・ 体制の確保状況
窓口「医療安全相談室」を設置し、医療安全相談室(個室)で相談。対応者は客観的・中立的な立場を遵守し、相談後の対応は患者等の意向を尊重しながら対応を行っている。対面の他、電話相談・投書箱でも対応を行っている。

⑫ 職員研修の実施状況

- ・ 研修の実施状況
監査委員会からの意見の表明に関する事項については、研修該当事項がない為、実施なし。
医療法施行規則改正に係る事項については、医療安全管理室主催の研修として実施。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

院内での研修実施予定は無し。

花岡 正幸（病院長）は、2023年度特定機能病院管理者研修（継続受講）を2024年2月26日に受講済である。

関島 良樹（医療安全管理責任者）は、2023年度特定機能病院管理者養成研修（初回）を2023年12月4日に受講済である。

今村 浩（医療機器安全管理責任者）は、2023年度特定機能病院管理者養成研修（継続受講）を2023年12月15日に受講済である。

土屋 広行（医薬品安全管理責任者）は、2023年度特定機能病院管理者研修（継続受講）を2023年12月15日に受講済である。

（注）前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

2024年6月12日～14日公益財団法人日本医療機能評価機構病院機能評価一般病院3受審
今後、補充的な審査を受審予定

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

・評価を踏まえ講じた措置

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <p>人格が高潔で、学識に優れ、かつ、本院における医療の質と安全性を確保し、高度医療の提供及び教育研究活動を適切かつ効果的に運営することができる能力を有する者で、以下の要件を満たす者。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 医師免許を有している者 (2) 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者 (3) 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者 (4) 教育・研究・診療に必要な資質・能力を有している者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有 ） ・ 公表の方法 本学公式サイトに掲載

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合議体の主要な審議内容 信州大学医学部附属病院の運営に関する重要事項を審議する。 ・ 審議の概要の従業者への周知状況 各診療科長宛に紙媒体にて通知するとともに、電子掲示板にて周知している。 	

- ・合議体に係る内部規程の公表の有無（有）
- ・公表の方法
WEBによる公表
- ・外部有識者からの意見聴取の有無（無）

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
花岡 正幸	○	医師	病院長
杠 俊介		医師	副病院長（経営、設備担当）
関島 良樹		医師	副病院長（危機管理担当）
内田 緑		看護師	副病院長（看護部長）
酒井 修		事務職員	副病院長（事務担当）
桑原 宏一郎		医師	
梅村 武司		医師	
牧島 秀樹		医師	
上條 祐司		医師	
下島 恭弘		医師	
駒津 光久		医師	
鷺塚 伸介		医師	
中沢 洋三		医師	
奥山 隆平		医師	
藤永 康成		医師	
副島 雄二		医師	病院長補佐（診療・評価担当）
瀬戸 達一郎		医師	
清水 公裕		医師	病院長補佐（教育・研究、卒後臨床研修担当）
伊藤 研一		医師	
高橋 淳		医師	病院長補佐（国際化、倫理担当）
堀内 哲吉		医師	
栗田 浩		医師	病院長補佐（施設担当）
村田 敏規		医師	

工 穰		医師	病院長補佐（広報、地域医療担当）
塩沢 丹里		医師	
川真田 樹人		医師	
今村 浩		医師	病院長補佐（管理・運営、災害対策担当）
関口 健二		医師	
堀内 博志		医師	
上原 剛		医師	
古庄 知己		医師	
本田 秀夫		医師	
内藤 隆文		薬剤師	

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有）
- ・ 公表の方法
WEBによる公表
- ・ 規程の主な内容
 - ・ 病院長は、病院の管理運営に関する業務を統括する。
 - ・ 副病院長は4人以内とし、そのうち1人は看護部長をもって充て、1人は事務部担当とし、それ以外の副病院長は、病院長が指名する。
 - ・ 病院長補佐は3人以内とし、信州大学医学部附属病院規程の第16条に規定する病院診療科長会の構成員のうちから、病院長が指名する。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
- ・ 副病院長は、病院長の業務を補佐するとともに、病院長に事故があるときは、病院長があらかじめ指名した副病院長が、その職務を代行する。
- ・ 病院長補佐は、病院長の求めに応じ、病院の管理運営に関する専門的事項について企画立案するとともに、当面する諸課題その他病院長が必要と認める事項について助言等を行う。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - ・ 花岡 正幸（病院長）は、2023年度特定機能病院管理者研修（継続受講）を2024年2月26日に受講済である。
 - ・ 関島 良樹（医療安全管理責任者）は、2023年度特定機能病院管理者養成研修（初回）を2023年12月4日に受講済である。
 - ・ 今村 浩（医療機器安全管理責任者）は、2023年度特定機能病院管理者養成研修（継続受講）を2023年12月15日に受講済である。
 - ・ 土屋 広行（医薬品安全管理責任者）は、2023年度特定機能病院管理者研修（継続受講）を2023年12月15日に受講済である。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する
監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	有
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年2回（R6.1.19(金)、R6.2.29(木)） ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> (1) 医学部附属病院における医療安全管理責任者、医療安全管理室、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者等の業務の状況について、病院長等から報告を求め、又は必要に応じて資料の提出、関係者の委員会への出席等を求め確認を行うこと。 (2) 必要に応じ、学長又は病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を表明すること。 (3) 第1号及び第2号に掲げる業務について、その結果をホームページで公表すること。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有） ・ 委員名簿の公表の有無（有） ・ 委員の選定理由の公表の有無（有） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（無） ・ 公表の方法： WEBによる公表 	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
田内 克典	社会医療法人 財団慈泉会相 澤病院 病院長	○	医療に係る安全 管理に関する 識見を有する者	無	1
宗村 和広	信州大学経法 学部 教授		法律に関する 識見を有する者	無	1
土屋 恭子			医療を受ける者	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・ 体制の整備状況及び活動内容
内部監査室において、当該年度の病院を含む各組織の業務に関し、監事による監査と連携し、
監査を実施している。
- ・ 専門部署の設置の有無（有）
- ・ 内部規程の整備の有無（有）
- ・ 内部規程の公表の有無（有）
- ・ 公表の方法
WEBによる公表

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る
体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 国立大学法人信州大学病院業務監督委員会を設置し、次に掲げる事項について、点検・監督を行う。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 経営状況に関する事。 (2) 予算及び決算に関する事。 (3) 中期目標・中期計画に関する事。 (4) 人事計画に関する事。 (5) 学長が必要と認めた事項に関する事。 (6) その他病院の管理運営に関する重要事項に関する事。 ・ 会議体の実施状況（年 6 回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（有）（年 6 回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（有） ・ 公表の方法 WEBによる公表 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
永松 裕希	理事（総括担当（プロボスト））	○	無
藤澤 晃	理事（財務、環境施設担当）		無
西垣 明子	長野県		無
井上 憲昭	JA 長野厚生連 富士見高原医療 福祉センター		無
天野 直二	岡谷市病院事業管理者		有

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有）・ 通報件数（年0件）・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（有）・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有）・ 周知の方法：医療安全管理マニュアル、病院オールメール（年2回）、業務端末に掲載

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要 病院ホームページ、病院概要冊子 (年 1 回発行) および病院広報誌 (年 4 回程度発行) 等により、病院の基本理念をはじめ診療科・診療部門等の取り組み等について、患者や他の医療機関等へ広く情報発信を行っている。 また、2021年5月には書籍「よりよい医療を届けたいー信大病院の最新治療」を発行した。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 複数の診療科が連携し医療を提供するてんかん外来、周産期のこころの外来、頭痛外来、YS外来等の専門外来を開設している。また、2024年1月に、認知症外来を改め、認知症治療外来として開設し、機能強化した。</p>	